

〔尼崎青少年創造劇場関係〕

尼崎青少年創造劇場の運営

1 主催公演事業

(1) ピッコロシアター鑑賞劇場

県民文化の高揚と地域文化の振興を図るため、演劇、伝統芸能、音楽（室内楽）などの優れた舞台芸術を紹介する鑑賞劇場を開催した。また、子どもと大人が一緒に楽しめる演劇や落語会など、明日のひょうごを担う子どもたちに優れた舞台芸術にふれる機会を提供した。

事業名	公演年月日	出演者等	入場者数
いいむろなおきマイムカンパニー 「オリンピアの夢」 (大ホール) (文化庁 劇場・音楽堂等機能強化推進事業補助)	3. 4. 16(金) 17(土) (2公演)	作・演出=いいむろなおき 出演=いいむろなおきマイム カンパニー	368 *
ピッコロ寄席「桂ざこば一門会」 (大ホール)	3. 5. 15(土)	出演=ざこば、塩鯛、出丸、 ひろば、小鯛	107 *
生演奏で紙芝居 「グッドガール シンシア」 (小ホール)	3. 6. 23(水)	川端裕美 (音楽、フルート) 大竹秀晃 (パーカッション) 吉江麻樹 (朗読、ピッコロ劇団員) 風太郎 (紙芝居作・画、ピッコロ劇団員)	46 *
ピッコロ寄席 桂枝雀一門 「南光 雀三郎 二人会」 (大ホール)	3. 8. 21(土)	出演=南光、雀三郎、天吾	167 *
シアタースタート 劇団風の子九州 「ピーかぶー」 (中ホール)	3. 9. 10(金) (2公演)	出演=劇団風の子九州 作=中島研、川島二郎 構成・演出=中島 研	88 *
文学座公演 「熱海殺人事件」 (大ホール)	3. 9. 18(土)、 19(日) (3公演)	作=つかこうへい 演出=稲葉賀恵 出演=石橋徹郎、上川路啓志 奥田一平、山本郁子	548 *
ピッコロ寄席「桂吉朝一門会」 (大ホール)	3. 12. 19(日)	出演=あさ吉、吉弥、よね吉 しん吉、弥壺	368
ピッコロ寄席「桂米團治独演会」 (大ホール)	4. 2. 13(日)	出演=米團治、紅雀、團治郎	317
ピッコロ寄席 「子どもと楽しむ落語会」 (大ホール)	4. 3. 13(日)	出演=吉弥、そうば、米輝 *例年開場時間に舞台上で開催していた参加型“鳴り物体験”は コロナ禍により取り止め	183
合 計 9 事業 (*) 50%以下の席数制限			

(2) 2021 ピッコロフェスティバル

開館記念日（8月19日）を中心に約1カ月にわたり、地域で創造活動に取り組む若者等の演劇、音楽、バレエなどの成果発表と交流の場として、施設を無償提供するとともに、その鑑賞等を通じた舞台芸術に親しむ機会とするため、県民の参加と協働による「ピッコロフェスティバル」を2年ぶりに感染症対策に配慮し、出演者・入場者を制限して開催した。

- ・ 時期：令和3年7月29日（木）～8月29日（日）
- ・ 場所：ピッコロシアター各ホール

区 分	部 門 等	参加団体	出演者数 参加者数	入場者数
県民参加 企画	バレエ・モダンダンス	9	132	259
	小・中・高校演劇	7	165	475
	大学演劇・一般演劇（番外編） ピッコロシアター実験劇場～朗読×照明で「リーディング（朗読）公演」を作ってみよう～	—	18	無観客
地域団体 連携企画	人形劇フェスタ阪神	12	98	79
	バリアフリーコンサート	5	36	37
体験企画	ちゃっと！狂言～入門編～	1	4	27
	まわしよみ新聞&演劇ワークショップ 「壁新聞を演じてみる」	—	2	9
	40歳からのワンコイン演劇講座	—	1	9
特別企画	ピッコロ劇団ファミリー劇場公演「グリム兄弟！ ～みんなのメルヘン きかせてダンケ～」	1	13	670
	ピッコロ寄席 桂枝雀一門 南光・雀三郎二人会	1	3	167
協賛企画	劇団演陣公演（演目「からっぽ」） ※演劇学校・舞台技術学校 0B・元ピッコロ劇団員 がかかわる劇団の公演	1	4	95
	文化庁・日本劇団協議会事業 エデュケーションワークショップ 2021 「DIE コース in 関西」	1	4	10
計（38団体）			480	1,837
			総計	2,317

（注1）高校演劇研究会阪神支部との連携企画である高校生向け演劇ワークショップ「令和の演劇向上委員会 vol.1 2021 夏期集中講座」→コロナ禍により中止

（注2）関西二期会との連携企画であるオペラ教室「オペラの楽しみ方」及び関西二期会オペラ研修所研修生によるオペラ公演→コロナ禍により令和4年3月16～17日に延期したが、更に中止

【主催公演事業 評価】

ピッコロシアター鑑賞劇場

- 演劇の分野では、いいむろなおきマイムカンパニー「オリンピアの夢」は、新型コロナ感染予防のため半数以下の席数で上演したが、東京オリンピック・パラリンピックが、2021年に延期開催されたことから注目され、新聞をはじめとする多くのメディアに取り上げられたこともあり、ほぼ満席となった。

（マスコミの批評）

「時代に翻弄されてきた五輪の歴史は、コロナ禍で開催される東京五輪と重なる。フェアプレーの精神で挑む選手たちの原点を肌で感じ、遠くの出来事のような五輪が、身近になった気がした。」（読売新聞 5/11）

- 9年目となった乳幼児と保護者向けのシアタースタート事業として、劇団風の子九州「ぴーかぶー」を2回上演。当初は乳児と触れ合う場面の多い、「ハイハイ、ごろ～ん」も予定していたが、乳児との一定の距離確保が困難なため、「ぴーかぶー」のみを2回上演した。
参加者からは、「子どもたちの反応に合わせて一つの舞台を作り上げられ、あたたかく濃密なひとときだった。」等の高い評価を得た。
- ピッコロフェスティバルの開催により、地域の芸術文化団体やグループに日頃の練習の成果発表と交流の場、地域住民には、気軽に舞台芸術に触れられる機会を提供し、地域文化の活性化につなげていくことができた。
- 劇団員が絵と台本を手掛けた紙芝居「グッドガールシンシア」を生演奏で上演し、介助犬の認知度の普及に貢献できた。
- 伝統芸能の分野では、尼崎ゆかりの桂米朝一門による恒例の落語会「ピッコロ寄席」を開催、5月の「桂ざこば一門会」、「桂枝雀一門」「桂南光・桂雀三郎二人会」は、席数制限の中で実施したが、後の「桂吉朝一門会」「桂米團治独演会」は、安定した集客を得た。
ピッコロ寄席「子どもと楽しむ落語会」例年開場時間に舞台上で開催していた参加型“鳴り物体験”はコロナ禍により取り止めるなど、新型コロナ感染予防を行ったうえで、実施した。
- 鑑賞劇場入場者のアンケートについては、会場内据え置き及びWeb アンケート方式での実施。満足度（「とてもよかった」「よかった」は、演劇 96.3%、ピッコロ寄席 97.8%）

2 自主公演事業

県立ピッコロ劇団事業

尼崎青少年創造劇場が長年培ってきた人材育成事業の集大成として創設した県立ピッコロ劇団が、優れた舞台芸術の創造と地域文化の振興をめざして、ピッコロシアター等での演劇公演を中心に、演劇指導、外部出演など多彩な活動を展開した。

【設 立】平成6年4月1日

【劇団代表】岩松 了（劇作家・演出家・俳優）

【客 員】鵜山 仁（演出家＝文学座）、喜志 哲雄（京都大学名誉教授）、
杉本 了三（演劇プロデューサー）、内藤 裕敬（劇作家・演出家＝南河内万歳一座）

【劇 団 員】35名（男17名、女18名）（R4.3.31現在）

(1) 劇団公演の実施

大人向け、ファミリー向け、小・中学生向けなど、幅広く良質の創作演劇を提供した。

事 業 名	公演年月日	出演者等 ※はピッコロ劇団員	入場者数
オフシアターVol. 37 「もういちど、鴨を撃ちに」 (中ホール)	3. 4. 9(金) ～11(日) (5公演)	作＝A. ヴァムピーロフ「鴨猟」 (宮澤俊一・五月女道子 訳 群像社) 台本・演出＝島守辰明 (※) 出演＝ピッコロ劇団員 (注) コロナ禍により令和2年度に 公演中止となったもの	232 ＊
第70回公演 「スカパンの悪だくみ」 (大ホール)	3. 5. 23(日)、 28(金) ～30(日)、 6. 1(火) (6公演)	作＝モリエール (鈴木力衛訳 中央公論社) 台本＝上原裕美 (ピンクのレオタード)	703 ＊
中学生のための演劇鑑賞体験事業 ピッコロわくわくステージ 「スカパンの悪だくみ」 (大ホール)	3. 5. 25(火) ～6. 4(金) (7校7公演)	演出＝孫 高宏 (※) 出演＝ピッコロ劇団員 (注) コロナ禍により令和2年度に 公演中止となったもの	700 ＊
わくわくステージ 市町ホール公演 「スカパンの悪だくみ」 (ライフピアいちじま大ホール)	3. 6. 11(金) (1校1公演)		231 ＊

ファミリー劇場 「グリム兄弟！～みんなの メルヘン きかせてダンケ～」 (大ホール)	3. 8. 7(土) ～8(日) (4公演)		670 ＊
中学生のための演劇鑑賞体験事業 ピッコロわくわくステージ 「グリム兄弟！～みんなの メルヘン きかせてダンケ～」 (大ホール)	3. 11.26(金) ～12.3(金) (14校 9公演)	作＝早船 聡 (サスペンデッ ズ) 演出＝平井久美子 (※) 出演＝ピッコロ劇団員	1, 434 ＊
ファミリー劇場 「グリム兄弟！～みんなの メルヘン きかせてダンケ～」 (県立芸術文化センター 阪急 中ホール)	3. 12. 25(土) ～26(日) (3公演)	12月公演 オーディションによる子ども達出 演はコロナ禍により中止	1, 045
おでかけステージ (小学校公演) 「学校ウサギをつかまえろ」 ① 上郡町立上郡小学校 ② 南あわじ市立松帆小学校	①3.10.27(水) ②3.10.29(金)	原作＝岡田 淳 台本＝眞山直則 (※) 演出＝吉村祐樹 (※) 出演＝ピッコロ劇団員	①185 ②248 計433
第 71 回公演 「いらないものだけ手に入る」 (大ホール)	3. 10. 9(土) 10(日) 12(火) ～14(木) (6公演)	作・演出＝土田英生 (MONO) 出演＝ピッコロ劇団員	954
	3.10.28(木)～ 4.3.31(木)	劇団公演で初のアーカイブ配 信を試行的に実施	76
第 72 回公演 ピッコロシアタープロデュース 「脚気にしやがれ！ ～近代日本最悪の病「脚気」奮闘記～」 (県立芸術文化センター 阪急 中ホール)	4. 2. 18(金) ～20(日) (5公演)	作・演出＝G 2 出演＝ピッコロ劇団員ほか 関西俳優陣 8 名も出演	1, 075
合 計 10事業 (※)ピッコロ劇団員、(*)50%以下の席数制限			7,553

(注)合計にはアーカイブ配信分を含む

(参考 1) ピッコロ劇団公演における多様なアクセシビリティに配慮した鑑賞サポートの実施状況

- ① 第 70 回公演「スカパンの悪だくみ」(大ホール)
 - ・ 視覚障害者向けにピッコロ劇団員による音声ガイド付きで上演
 - ・ 手で触れて舞台をイメージしてもらえよう舞台装置を立体図(触図)で解説
 - ・ 点字パンフレットの配布
- ② わくわくステージ「グリム兄弟！～みんなのメルヘン きかせてダンケ～」(大ホール)
 - ・ 兵庫県立姫路聴覚特別支援学校生徒向けに字幕付きで上演
 - ・ バックステージ解説の手話通訳
 - ・ 神戸市立盲学校生徒向けにピッコロ劇団員が作成した解説CDを事前に提供
- ③ ファミリー劇場「グリム兄弟！～みんなのメルヘン きかせてダンケ～」
(県立芸術文化センター 阪急 中ホール)
 - ・ 聴覚障害者向けに字幕付きで上演(舞台の両側に字幕を設置)

(参考2) 職員・劇団員のバリアフリー研修の実施

各障害の特性や接遇方法等の理解を深めるためのバリアフリー研修を実施

- ・ 開催日：令和3年5月8日（土）（大ホール）
- ・ 参加者：ピッコロシアター職員、ピッコロ劇団員 計40名
- ・ 講師：南部充央氏（日本障害者舞台芸術協働機構代表理事／㈱リアライズ取締役）
- ・ 内容：視覚障害者と聴覚障害者の特性と接遇方法など

(参考3) ファミリー劇場の関連企画

阪神南県民センターが主催する「阪神地域オープンミュージアム 無料開放DAY」にピッコロシアターも参画、12月に芸術文化センターで上演するファミリー劇場「グリム兄弟！～みんなのメルヘン きかせてダンケ～」にちなんだ「おはなし会」を開催。

- ・ 開催日：令和3年10月2日(土)～3日(日)に3回上演（閲覧室）
- ・ 入場者数：親子など計80人
- ・ 上演内容：グリム童話「ブレーメンの音楽隊」及び「ヘンゼルとグレーテル」のお芝居
- ・ 出演者：ピッコロ劇団員3名（風太郎、野秋裕香、金田萌果）

(2) 演劇の指導

大学や高等学校等に劇団員を指導者として派遣することによる演劇ワークショップ等を県下各地で開催。ピッコロ演劇学校においては、本科及び研究科の主任講師、助手をピッコロ劇団員が通年で担当。

指導先、指導事業名	劇団員	実施年月日	実施場所等
ピッコロ演劇学校 本科講師	山田 裕 菅原ゆうき 杏華	通年	ピッコロシアター
ピッコロ演劇学校 研究科講師	島守辰明 檜村千晶 堀江勇氣		
兵庫県立宝塚北高校 非常勤講師	木之下由香	通年	県立宝塚北高校
兵庫県立伊丹北高校 非常勤講師	孫 高宏	通年	県立伊丹北高校
プール学院高等学校 非常勤講師	中川義文 杏華 菅原ゆうき	通年	プール学院高等学校
大阪市立咲くやこの花高校 非常勤講師	木村美憂	通年	大阪市立咲くやこの花高校
甲南女子大学 第三種特任教員	本田千恵子	通年	甲南女子大学
大阪芸術大学 非常勤講師	本田千恵子	通年	大阪芸術大学
近畿大学 非常勤講師	島守辰明	通年	近畿大学
劇団高円養成塾 講師	島守辰明	通年	奈良市ならまちセンター
クラーク記念国際高校 芦屋キャンパス 非常勤講師	中川義文	通年	クラーク記念国際高校 芦屋キャンパス
大阪アニメ・声優&eスポーツ専門学校 講師	中川義文	通年	大阪アニメ・声優&eスポーツ専門学校
ホスピタリティ ツーリズム専門学校 大阪講師	檜村千晶	通年	ホスピタリティ ツーリズム 専門学校大阪（大阪市）
ヒューマンアカデミー神戸校 講師	眞山直則	通年	ヒューマンアカデミー神戸校

やんちゃんこ 演劇ワークショップ講師	風太郎 吉江麻樹 有川理沙 金田萌果 田渕詩乃	通年	やんちゃんこ ※2022年1月 中ホール やんちゃんこ劇団公演
豊岡市新任職員研修 講師	本田千恵子 菅原ゆうき	3.4.12	豊岡市健康福祉施設 多目的ホール
劇団ここから 劇団員対象ワークショップ 講師	中川義文	3.4.18	氷丘公民館講義室
関西学院大学 非常勤講師	本田千恵子	3.4.19、26	関西学院大学
西宮市立西宮東高校文化祭 上演指導	島守辰明 樫村千晶 山田 裕 中川義文	3.4.28 3.5.26 3.6.2、12	西宮東高校ホール
兵庫県立神戸鈴蘭台高校 3年生文化祭演劇指導	島守辰明 今井佐知子 樫村千晶 木村美憂	3.4.30 3.5.28	県立神戸鈴蘭台高校
関西学院大学 非常勤講師	島守辰明	3.5.10、17 24、31	関西学院大学
兵庫県立鳴尾高校3年生 文化祭演劇指導	山田 裕 中川義文	3.5.31 3.6.1	兵庫県立鳴尾高校
関西学院大学教員養成のための 未来塾講師	本田千恵子	3.6.12	オンライン実施 (関西学院大学聖和キャンパスキャリアセンター)
あつまれ!ピッコロひろば 養父市立建屋小学校 演劇ワークショップ講師	孫高宏 吉江麻樹	3.6.15、28	養父市立建屋小学校
池田市立五月山児童文化 センターマイム指導	菅原ゆうき	3.6.20 →延期 3.7.18 3.8.22 3.9.19	池田市立五月山児童文化 センター
甲南女子大学エクステンション 講座 講師	本田千恵子	3.6.29	オンライン実施 (甲南女子大学 社会貢献課)
「日本の劇」戯曲賞2021 第 一次選考審査員	眞山直則 島守辰明	3.7～9月	日本劇団協議会
日本劇団協議会やってみよう プロジェクト 「にほんごであそぼう」講師	本田千恵子 三坂賢二郎 菅原ゆうき 堀江勇気 木村美憂	3.7.3、31 3.8.1 8.22→延期 4.1.16	小野市うるおい交流館 エクラ大会議室
ピッコロ実技教室 まわしよみ新聞&演劇ワーク ショップ〈壁新聞を演じてみる〉講師	本田千恵子 三坂賢二郎	3.7.29	ピッコロシアター 小ホール
兵庫県自治研修所行政特別研 修 講師	本田千恵子 菅原ゆうき	3.8.16	兵庫県自治研修所
日本劇団協議会 日本の演劇人を育てるプロジ ェクトエデュケーションワー クショップ2021 DIE in 関 西」アシスタント	本田千恵子	3.8.17～19	ピッコロシアター 小ホール
兵庫県立神崎高校 コミュニケーション能力育成 研修 講師	本田千恵子 三坂賢二郎	3.9.9	県立神崎高校

第34回兵庫県高等学校演劇研究会丹有支部演劇コンクール 審査員	島守辰明 山田 裕	3.10.3	ホロンピアホール (三田市)
兵庫県立視覚特別支援学校 コミュニケーション能力向上 事業 講師	本田千恵子 菅原ゆうき	3.10.19、12.14、 4.1.24 →中止	県立視覚特別支援学校内
九州大学「Kyushu University Asia Week」内 ワークショップ・講演 講師	本田千恵子	3.10.21	オンライン
あつまれ!ピッコロひろば 養父市立建屋小学校上演指導	孫高宏 吉江麻樹	3.10.25、 11.8、12	養父市立建屋小学校
兵庫県立こどもの館 児童厚生員等研修会 講師	亀井妙子 森万紀 山田裕	3.11.1	尼崎市立すこやかプラザ 多目的ホール
神戸松蔭女子学院大学 教育実習指導	本田千恵子	3.11.1	神戸松蔭女子学院大学
あつまれ!ピッコロひろば 西脇市立比延小学校 演劇ワ ークショップ講師	亀井妙子 森 万紀 山田 裕	3.11.12	西脇市立比延小学校
新国立劇場演劇研修所 講師	島守辰明	3.11.13～12.20	新国立劇場演劇研修所
県立神出学園ワークショップ 上演指導	山田 裕 菅原ゆうき	3.11.29、12.6、13	県立神出学園
甲南女子大学 総合子どもカーニバル音楽劇 指導	本田千恵子	3.12.4	甲南女子大学芦原講堂
第23回身体障害者補助犬シ ンポジウム 紙芝居上演指導	吉江麻樹	3.12.5	宝塚市立中央公民館
兵庫県立夢野台高校 教職類型表現力育成向上 ワークショップ 講師	本田千恵子 三坂賢二郎 菅原ゆうき 堀江勇気	3.12.15、16	県立夢野台高校
「みんなでつなごう! 加古川文化フェスティバル」 司会指導	本田千恵子	3.12.27	加古川市民会館
京田辺シュタイナー学校 2021年度教員養成講座 講師	本田千恵子	4.1.9～10	京田辺シュタイナー学校
尼崎市立大成中学校 地域に学ぶ「トライやる・デイ」 講師	有川理沙	4.1.28	尼崎市立大成中学校

(3) 外部出演等

他劇団、地域団体等の依頼を受け、演劇公演、放送等での出演や演出などに劇団員を派遣。

事業等名	劇団員	実施年月日	開催場所
「マラー/サド」関西公演 演技指導	中川義文	通年	
児童劇団「リトル・ぐらん」 上演指導・演出	風太郎	通年	新沢地区公民館 (奈良県橿原市)
ドラマ『惑星スミスでネイキッドランチを』第 1話、第13話 出演	風太郎	3.4.5 24:00～放映	サンテレビ
ストリートシアターフェス ストレンジシード 静岡 2021 コトリ会議「しずおか神経の糸と対 話する」 出演	原 竹志	3.5.2～5	リモートで実施
OVER THE WALL～伝説の映画女優 マレーネ・ディートリッヒ～ 演出	島守辰明	3.5.22～24	WINNER (伊丹市)
生演奏で紙芝居「グッドガール シンシア」朗読	吉江麻樹	3.6.23	ピッコロシアター 小ホール
ゆめのたねラジオ 出演	吉江麻樹	3.7.16、23	電話出演

コトリ会議「おみかんの明かり」 出演	原 竹志	3.7.22～25	東京芸術劇場シアターイースト
エフエムあまがさき (FM aiai) 「浩司・洋子の愛・あいトモに乾杯！」出演	本田千恵子	3.7.26	電話出演
湯浅光則氏 (写真家) 写真撮影 モデル	有川理沙 谷口 遼	3.7.30 撮影	
コトリ会議「スーパーポチ」 出演	原 竹志	3.8.11～14 3.9.23～27	ArtTheater dB KOBE こまばアゴラ劇場
NHK終戦ドラマ「しかたなかったと言うてはいかんのです」出演	山田 裕 浜崎大介	3.8.13	NHK
県立西宮今津高校 職業人インタビュー 話し手	木之下由香	3.8.14	ピッコロシアター 談話室
エフエムあまがさき (FM aiai) 特別番組企画 「aiiai フェスタ」内 ラジオドラマ台本・演出・ 出演	風太郎 金田萌果	3.8.20	アルカイクホール・ミニ
ピッコロフェスティバル参加企画 「バレエ・モダンダンス」 アナウンス	木村美憂	3.8.22	ピッコロシアター 大ホール
しんぐうすすむ絵本コンサート vol2 音楽と映像で綴る新宮晋の軌跡 進行役	木村美憂	3.8.29	三田市総合文化セン ター 郷の音ホール
「横尾忠則の恐怖の館」展効果音 出演	今井佐知子 野秋裕香 三坂賢二郎	3.9.18～4.2.27	横尾忠則現代美術館
遊劇体〈遊劇体×泉鏡花オリジナル戯曲 全作品上演シリーズ11〉 「深沙大王」出演	浜崎大介	3.9.21～27	THEATRE E9 KYOTO
フェニックス共済関係兵庫県・神戸市合同 街頭キャンペーン 出演	浜崎大介	3.10.9	デュオドーム (神戸市)
大阪芸術大学短期大学部 WEB サイト 出演	有川理沙	3.11 月	
コトリ会議「スーパーポチあしあと」出演	原 竹志	3.11.5～7	金沢 21 世紀美術館
尼崎市立塚口中学校 社会科公民的分野 公開授業劇の体験プログラム 出演	堀江勇氣 有川理沙	3.11.25	尼崎市立塚口中学校
尼崎市立あまよう特別支援学校交流チャレンジ 構成・出演	風太郎 堀江勇氣 金田萌果 田淵詩乃	3.12.10	尼崎市立あまよう特 別支援学校体育館
メイシアターSHOW 劇場 vol. 14 「十二人の怒れる男」 出演	孫 高宏 三坂賢二郎	3.12.10～12	吹田市文化会館メイ シアター中ホール
美しい音楽と劇の二重奏 「真の姿のピーターパン」 出演	菅原ゆうき	3.12.11	豊能町立ユーベルホ ール
NHKドキュメンタリードラマ「決戦！大坂の陣 秀頼VS. 淀殿 新資料が描く戦国最後の戦い」 大野治長役 出演	岡田 力	3.12.30	NHK・BS プレミアム
サンテレビ年末ドラマ 「勝手にライブをしやがれ！」 ナルシストなヴォーカル役 出演	風太郎	3.12.30	サンテレビ
やんちゃんこ劇団第2回公演 「ピアってみました！」演技指導・出演	風太郎	4.1.10	ピッコロシアター 中ホール
サンテレビ「ひょうご発信！」齋藤知事と話そ う！「ポストコロナ社会に向けた芸術文化」出演	平井久美子 樫村千晶 橘 義	4.2.13,14	サンテレビ
文化芸術×共生社会フェスティバル「かもめ」出演	孫 高宏	4.2.13	滋賀県立芸術劇場びわ 湖ホール
伴美紅氏 (スタイリスト) モデル	有川理沙	4.2.21 撮影	
D計画 アクト&ライブ「月と首長竜」出演	堀江勇氣	4.3.26～28	WINNWER(伊丹市)
豊能町高山住吉神社神楽殿ライブ 司会	本田千恵子	4.3.27	豊能町高山地区住吉 神社

《メディア出演》

* テレビ出演（外部出演一覧からの再掲）

- ・サンテレビドラマ「惑星スミスでネイキッドランチを」第1話、第13話 風太郎
- ・NHK 終戦ドラマ「しかたなかったと言うてはいかんのです」 山田 裕、浜崎大介
- ・NHK ドキュメンタリードラマ「決戦！大坂の陣 秀頼VS淀殿 新資料が描く戦国最後の戦い」岡田 力
- ・サンテレビ年末ドラマ「勝手にライブをしやがれ！」ナルシストなヴォーカル役 風太郎

* ラジオ出演

- ・ゆめのたねラジオ（インターネットラジオ） 吉江麻樹
- ・エフエムあまがさき(FM aiai)「浩司・洋子の愛・あいトモに乾杯！」 本田千恵子
- ・エフエムあまがさき(FM aiai)特別番組企画「aiai フェスタ」内ラジオドラマ 風太郎、金田 萌果

* CM出演：山田 裕 「小さなお葬式」／原 竹志 「エディオン」

* ナレーション：中川義文、菅原ゆうき 「エネオス」プレゼン用ナレーション

(参考) コロナ禍により中止または延期になった演劇指導・外部出演など

事業等名	劇団員	実施年月日	開催場所
ニットキャップシアター第40回公演 『カレーと村民』 出演	亀井妙子	3.5.6～10 →中止	こまばアゴラ劇場
京都アヴァンギャルドマイム公演 出演	菅原ゆうき	中止	京都アヴァンギャルド
日本劇団協議会やってみようプロジェクト「にほんごであそぼう」 講師	本田千恵子 三坂賢二郎 菅原ゆうき 堀江勇氣 木村美憂	3.9.5、12 →延期 4.1.30、2.6 →中止	加東市東条地区ミナクル 加東市社地区社協レク室
にしきた音楽祭「L A L A L A ミュージシャンコンテスト」公開予選 司会	本田千恵子	①3.9.11 ②3.9.19 ①②とも中止	①公同教会チャペルホール ②阪急西宮ガーデンズ 木の葉のステージ
ひょうご県友会神戸支部 20 周年記念事業 健康劇「なかもとと一緒に、フレイル予防」 台本・演出・出演	本田千恵子 ほか	3.10.13 →4 年 5 月以降 に延期	パルテホール（神戸市）
高山右近フェスタ 司会	本田千恵子	3.10.16 →延期	右近の郷（大阪府豊能町）
県立教育研修所 高等学校初任者研修 講師	本田千恵子	4.1.31、2.7 →中止	県立教育研修所
【あつまれ！ピッコロひろば】 おはなし BOX in 上郡町 出演	吉江麻樹 橋 義 有川理沙	4.2.6、3.27 →中止	上郡町生涯学習支援センター 中ホール
大阪劇団協議会プロデュース公演「民衆の敵」公演衣裳	木村美憂	4.3.25～27 →中止	吹田市文化会館 メイシアター中ホール

(4) ピッコロサポートクラブへの支援

尼崎商工会議所等が中心となって、平成8年に設立されたピッコロ劇団の後援会組織である「ピッコロサポートクラブ」の活動支援として、情報誌『into』発行など会員向けサービス事業を共同実施。

【会員数】令和4年3月末（法人会員・個人会員計 336 口）

【情報誌の発行】年4回発行（A5版、20 ページ、各 3,000～4,000 部程度）

【会員向け事業】ピッコロ劇団公演チケット優待、稽古場見学会、総会・交流会など。

※ 令和3年度は2年度に引続き総会・交流会の実地開催を取り止め、代わりに小学校公演のおでかけステージ「学校ウサギをつかまえろ」の通し稽古を「稽古場ライブ配信」として実施（R3.10.24 開催、視聴者数 24 名）

【自主公演事業 評価】

(1) ピッコロ劇団公演

- 5月期の第70回公演「スカパンの悪だくみ」はコロナ対策として、席数制限を50%として実施。令和元年度の第64回本公演「銭げば!」に続き、モリエール喜劇第2弾として、上演した。古典作品を関西弁で上演し、幅広い世代に親しみやすい作品として紹介。

視覚に障害のある方への鑑賞サポートとして、2公演で、音声ガイドを提供した。ガイド台本の作成、ナレーションは、劇団員が担当した。

視覚障害者からは、「音声ガイドは情報量もちょうどよく、わかりやすかった。会場案内もとても親切だった。」との評価があった。

- 10月期の第71回公演「いらないものだけ手に入る」は、土田英生氏(劇団 MONO)がピッコロと19年ぶりのタッグのもと、作・演出を手掛けた異星のロミオとジュリエットであり、上質の創作上演を実施することで、地域における演劇鑑賞人口の拡大に努めた。

この上演により、令和3年度文化庁芸術祭演劇部門・関西参加公演の部において、初の「大賞」を受賞することができた。軽妙で批評的な劇作や役者の個性を活かす的確な演出、劇団員の演技力などが高く評価されたものである。

また、ピッコロ劇団初の有料アーカイブ配信も実施した。当初は、12月までとしていたが、今回の受賞を受けて配信期間を4月末までアーカイブ配信について延長し、舞台芸術の創造発信の充実に努めた。

アンケートでは、「笑えて、笑えて、深い感慨があった。」等の評価をいただいた。

- 2月期の第72回ピッコロプロデュース公演「脚気にしやがれ!～近代日本最悪の病「脚気」奮闘記～」は、ピッコロ劇団員に加え、オーディションにより、関西で活躍する俳優陣8名も参加することで、上質な演劇鑑賞機会を提供した。公演直前で、出演者が新型コロナウイルス感染症となり降板したが、代役を2人で務めるなど、工夫を凝らし、予定した5公演を完了できた。鑑賞者からは、「存分に楽しめた」、「よくやってくれた」等多くの感想をいただいた。

- 大人も子どもも楽しめるファミリー劇場は「グリム兄弟!～みんなのメルヘン きかせてダンケ～」を上演した。8月期、12月期ともに、席数を制限して実施したが、即興性を活かした演出を工夫し、小さい子どもたちも楽しめる内容となった。12月公演では、役者と観客が一体となってクリスマスソングの振り付けを演出し、会場を盛り上げた。

- ピッコロ劇団 オフシアターVol.37「もういちど、鴨を撃ちに」は、新型コロナウイルス感染症対策として、席数を50%として実施。2年度にVol.36として上演予定であったが、緊急事態宣言発出により、1年越しで、キャスト、スタッフが再結集し、公演の実現に至った。この作品を鑑賞して、ピッコロ舞台技術学校に入学した者がいるなど、舞台創造に興味を持つ層の広がりにつながっている。

- ピッコロシアターで生の演劇公演舞台を県内中学生が鑑賞体験する「わくわくステージ」は本格実施 10 年目を迎えた。

当初は 5～6 月期（演目：「スカパンの悪だくみ」）と 11～12 月期（演目：「グリム兄弟!」）の計 20 ステージを予定していた。5～6 月期の 8 ステージ参加校数は 8 校 931 人（緊急事態宣言により 3 公演がキャンセルとなった。）であった。

11～12 月期は、9 ステージ参加校数は 14 校 1,434 人であった。

- 「わくわくステージ」では、事前に演目の原作者や時代背景の説明、舞台を支えるスタッフ等について記載したパンフレットを作成配布して学習効果を高めるとともに、終演後には、ピッコロ劇団員らによる舞台表現・舞台技術などの解説を行うことで、生徒だけでなく、参加校の教諭からも好評を得た。
- アンケートによる満足度（「とてもよかった」「よかった」）は、本公演で 95.2%、ファミリー劇場では 94.2%、わくわくステージでは生徒 92.0%、引率教諭 92.7%と高い評価を得た。

(2) 鑑賞サポートの充実

- ファミリー劇場「グリム兄弟!」では、聴覚障害者・高齢者など、聴こえづらい方の鑑賞のサポートとして、12 月の芸術文化センター公演では初めてとなる、舞台の両サイドに字幕を表示しての上演（1 ステージ 12 月 25 日公演）。併せて会場に手話通訳を配置した。またカーテンコールでは、出演者が手話付きでのクリスマスソングを披露。
- わくわくステージ「グリム兄弟!」では、聴覚特別支援学校等の鑑賞サポートとして、字幕表示による上演を行い、終演後のバックステージ解説には、手話通訳者を配置した。盲学校の鑑賞サポートとして、点字パンフレットとあらすじや人物紹介を録音した音声 CD を事前提供し、鑑賞理解を深めた。

利用者からも「字幕の出るタイミングがすごく良かった。わかりやすく物語に引き込まれた。」「障害者の娘と観劇して、親子で感動を共有することができた。」等の感想が寄せられ、評価されている。

(3) ピッコロ劇団員への評価

- ピッコロ劇団第 71 回公演「いないものだけ手に入る」で令和 3 年度（第 76 回）文化庁芸術祭賞「大賞」を受賞した。ピッコロ劇団公演における「大賞」は初受賞である。
- 三坂賢二郎劇団員が「兵庫県芸術奨励賞」（R3. 11. 9）及び「第 24 回関西現代演劇俳優賞大賞」（R4. 3. 2）を受賞するなど、劇団員への評価も高い。

(4) 演劇の指導、外部出演など

ピッコロ劇団員が、演劇学校本科、研究科の主任講師、指導助手を通年で務めている。

また、学校教育や行政の現場支援についても、劇団員による演劇指導や演劇ワークショップ（小学生向け「あつまれ！ピッコロひろば」や神出学園など）の依頼が継続しているほか、他劇団公演や文化イベントなどへの出演や演出などの協力も継続、劇団員活動の場の広がりが見られる。

（外部指導：中止 2 件／外部出演：中止 7 件）

3 人材育成・体験活動事業

(1) ピッコロ演劇学校・ピッコロ舞台技術学校の運営

演劇創造について幅広く学ぶ演劇学校（本科 1983 年開設、研究科 1984 年開設）、音響・照明・美術などの基礎技術を学ぶ舞台技術学校（1992 年開設）を運営。関西・日本を代表する演劇人、舞台技術者等を講師陣に迎え、プロ、アマチュアを問わない演劇関係人材や地域の文化活動リーダー、文化施設スタッフなどの養成を継続。

区 分	ピッコロ演劇学校	ピッコロ舞台技術学校
概 要	舞台づくりの楽しさや面白さを味わいながら、表現力や創造力を身につけるなど、将来の演劇創造者、地域に根差した文化活動リーダーを養成	クリエイティブな地域文化のステージづくりと文化施設運営の活性化を図るため、舞台芸術を支える美術、照明、音響の舞台技術者を養成
	実施にあたっては、毎授業、参加者全員が検温・手指消毒に努め、常時マスク着用、さらにはフェイスガードやアクリルボード等も併用して対応。	
期 間	令和 3 年 4 月 27 日 ～ 4 年 3 月 6 日（本科、研究科とも）	令和 3 年 4 月 27 日～ 4 年 3 月 6 日
場 所	ピッコロシアター	ピッコロシアター 県立芸術文化センター（特別授業）
授 業	原則、毎週 2 回（火・木の夜間）	原則、毎週 2 回（水・金の夜間）
講 師	【本科】 主任講師 山田 裕（ピッコロ劇団員） 助手 菅原ゆうき（同） 他 【研究科】 主任講師 島守辰明（ピッコロ劇団員） 助手 樫村千晶（同） 他	【美術コース】 主任講師 加藤登美子（舞台美術家） 【照明コース】 水野雅彦（㈱ハートス） 【音響コース】 林 哲郎（サウンド・ワット・カンパニー代表）
特別講師	平田 オリザ、岩松 了、鐘下 辰男	山北 史郎、服部 基、堀尾 幸男
生 徒	本科 入学 41 名 修了 34 名	研究科 入学 15 名 修了 14 名
		入学 26 名 修了 25 名〔美術 9、照明 8、音響 8〕

【特別講義】

区 分	期 日	特 別 講 師	講義テーマ
演劇学校	3.5.22	平田オリザ（劇作家・演出家）	演劇を学ぶとは
	3.6.12～13	岩松 了（演出家、俳優）	演劇的なことばについて
	4.1.22～23	鐘下 辰男（劇作家・演出家）	戯曲研究
舞台技術学校	3.7.10～11	山北 史郎（音響プランナー）	音響効果の基礎
	3.10.9～10	服部 基（舞台照明家）	舞台照明を考える
	3.11.13～14	堀尾 幸男（舞台美術家）	舞台美術のはじまり

【中間発表会 2021 P i c c o l l o P a s s o ～小さな一歩～】

区 分	期 日	公 演 概 要
演劇学校・本科 38 期生	3.10.30～31 (中ホール)	「夜明け～7つのオムニバス～」 台本・演出・出演＝演劇学校本科 38 期生
演劇学校・研究科 37 期生	3.11.6～7 (中ホール)	「夜明けは静かだ・・・」 ※卒業公演において同演目を上演 台本・演出＝島守辰明（ピッコロ劇団員） 出演＝研究科 37 期生

【オープンキャンパス】

区 分	期 日	概 要
舞台技術学校	3.12.22	学校説明、オペレーション体験、バックステージツアー
演劇学校	4.1.16	学校説明、現役学校生と一緒に身体訓練等の授業体験

【卒業公演】

区 分	期 日	公 演 概 要
演劇学校本科 38期生 舞台技術学校 29期生	4.3.5 (土)、6(日) (大ホール)	演目「ねこになった漱石」 作＝品川能正 潤色・演出＝山田裕（ピッコロ劇団員） 出演＝演劇学校本科38期生34名 美術プラン・製作・操作＝舞台技術学校生美術コース9名 照明プラン・操作＝舞台技術学校生照明コース8名 音響プラン・編集・操作＝舞台技術学校生音響コース8名
演劇学校 研究科37期生		演目「夜明けは静かだ…」 原作＝ボリス・ワシーリエフ 台本・演出＝島守辰明（ピッコロ劇団員） 出演＝演劇学校研究科37期生14名

(2) ピッコロ・山根演劇賞の贈呈

令和3年度のピッコロ演劇学校生及び舞台技術学校生のうち成績優秀で他の模範となる者及びピッコロ劇団員のうち優れた演劇活動を行った者に贈呈。

受 賞 者	備 考
飯田梨夏子（本科38期生） 島田 学（研究科37期生） 秋元茉莉子（舞台技術学校29期生） 計3名	サントリー地域文化賞の副賞をもとに平成元年3月に創設。 その後、神戸新聞奨励賞、久留島武彦文化賞、紀伊國屋演劇賞の賞金、山根淑子氏の寄付等により基金額を増額。
吉江 麻樹 橘 義 ピッコロ劇団員2名	

(3) ピッコロシアター文化セミナー

著名な舞台人による講演、専門家による伝統芸術の紹介・解説などの教養講座を開催し、舞台芸術への関心を高め、地域文化の振興を推進。（ピッコロシアター大ホール）

事 業 名	期 日	出演者等	入場者
<99>三世 茂山千之丞さんに聞く 「未来の狂言に向けて」 (注)コロナ禍で2年度から延期しての開催	3.6.5(土)	出演＝三世 茂山千之丞(狂言師) 聞き手＝亀岡典子 (産経新聞社文化部編集委員)	162 ＊
<100>小曾根 真さんに聞く 「音楽の力」	3.7.18(日)	出演＝小曾根 真(ジャズピアニスト) 聞き手＝三崎 力 (新国立劇場制作部演劇プロデューサー)	166 ＊

＊50%以下の席数制限

(4) ピッコロ実技教室

伝統芸能や演劇等の体験的学習、解説をまじえた実技教室を開催し、舞台芸術への関心を高め将来の鑑賞者の育成を推進。

区分	事 業 名	期 日	出演者（指導者）等	参加者
伝統 芸能	ちゃっと！狂言～入門編～	3.8.14(土)、 15(日)	大蔵流狂言方 善竹隆司・善竹隆平	27
演劇	まわしよみ新聞&演劇ワークショップ (壁新聞を演じてみる)	3.7.29(木)	陸奥 賢(まわしよみ新聞考 案者、コモンズ・デザイナー) 本田千恵子(ピッコロ劇団員)	9

	演劇ワークショップ 「40歳からのワンコイン演劇講座」	3.8.7(土)	大手前大准教授 瀬口昌生 (元ピッコロ劇団員)	9
オペラ	オペラの普及をめざして 関西二期会オペラ研修所との連携企画			
	「ピッコロオペラ教室」 オペラの楽しみ方	4.3.17(木)	関西二期会副理事長 小餅谷哲男	中止
	第57期生による修了オペラ 演目「愛の妙薬」		関西二期会オペラ研修所 第57期生 ほか	中止

(注) 3年度は「2021 ピッコロフェスティバル」期間中に開催

ただし、コロナ禍により一部中止・延期

- ・令和の演劇向上委員会 vol.2021 夏期集中講座：中止
- ・「ピッコロオペラ教室」、第57期生による修了オペラ：8月から3月に延期
→再度中止

(5) 研修生等の受け入れ

開かれた劇場として、インターンシップをはじめとした研修生（中学生、高校生、大学生、教職員等）を、年間を通して内外から受け入れ。

※ トライやる・ウィークは、コロナ禍により昨年度に引き続き中止

《3年度の受入状況》

- ・教員初任者研修：尼崎市立難波小1名、武庫東中1名
- ・インターンシップ：大手前大3年1名、大阪大学2年3名、3年2名
- ・劇場見学：大阪市立咲くやこの花高42名

(6) 地域の関係機関等との連携

ア ニ崎市ティーンズサポート事業への参加

尼崎市が市内外の10代の青少年の舞台鑑賞を支援するため、低廉な入場料（500円）で鑑賞機会を提供する「ティーンズサポート事業」に協力。（33名観劇）

イ 日興油脂の劇場招待事業

日興油脂株式会社（尼崎市）の支援を得て、こども食堂を利用している地元尼崎市内の子どもたちをピッコロ劇団ファミリー劇場へ招待。（80名観劇）

ウ 兵庫県阪神南県民センターの劇場招待事業など

- ・「青少年文化スポーツ体験事業」による招待
8月ピッコロ劇団ファミリー劇場に親子ペアを招待。（50組・100名観劇）
- ・「阪神地域オープンミュージアム無料開放DAY」への参加
阪神地域（7市1町）の美術館・博物館等が常設展を中心に無料開放するイベント（10月1～3日）に協力参加、ピッコロ劇団員が人形劇等を上演。（親子など80名観劇）

エ やってみようプロジェクト（文化庁・日本劇団協議会事業）等に協力参加

- ・地域団体（市／地域国際交流協会）が実施する地域在住の外国人等を対象にした日本語を使ったコミュニケーションワークショップ「にほんごであそぼう」（ピッコロ劇団員がファシリテーター）を開催。
※ 小野市国際交流協会・小野市うるおい交流館エクラとの連携で開催（4回、計131名参加（うち外国人110名））
※ 加東市・加東市国際交流協会との連携で2回開催予定→コロナ禍で中止
- ・エデュケーションワークショップ「DIEコース in 関西」をピッコロシアターが共催し、ピッコロ劇団員がアシスタント講師として参加。（10名参加）

【人材育成事業・体験活動事業 評価】

(1) ピッコロ演劇学校・ピッコロ舞台技術学校の運営

- 公立劇場では全国初の取り組み。

ピッコロ演劇学校・舞台技術学校は、それぞれ昭和 58 年、平成 4 年の開設以降、これまでに演劇学校本科 1,252 人、研究科 737 人、舞台技術学校 822 人、合計 2,811 名の卒業生を輩出している。その卒業生は、舞台芸術のプロとして劇団や制作会社で働く者、地域の文化施設で文化活動に携わる者、学校現場で演劇を活かした教育活動に携わる者など、全国各地で多彩な活動を展開し、地域文化の担い手として活躍している。

例えば、現在ピッコロ劇団員 35 名のうち同校出身者は 12 名で劇団公演やワークショップのほか、高校の非常勤講師などとしても活躍している。また、地元阪神地域の高校演劇部顧問の大半が本校卒業生であり、学校演劇の指導にあたり、その指導を受けプロとして演劇をめざす者が出るなど地域文化の牽引力となっており、高い評価を受けている。

平成 30 年度以降の修了者の中からも、劇団等の劇団員、研修生として 4 人が活躍、劇場・ホールを始めとするスタッフとして、27 名が従事するなど、演劇や地域コミュニティづくりの場において、活躍している。

《参加人数（修了者数）》演劇学校本科 41 人（34 人）、研究科 15 人（14 人）、
舞台技術学校生 26 人（25 人（美術 9・照明 8・音響 8））

(2) ピッコロシアター文化セミナーの開催

舞台芸術への興味を高めてもらえることや、劇場へ足を運ぶきっかけとなることを目的に開催。開館以来、第一線で活躍する俳優、演出家、劇作家、演奏家など著名人を招聘し、普段の舞台公演では聞けない話題や実演に出会える場として実施している。

令和 2 年度に予定しながら、コロナ禍により実施できなかった〈99〉の狂言師三世茂山千之丞氏からは、茂山千五郎家の伝統を継ぎながら、新作狂言やコント芝居、得意な英語を活かした“バイリンガル狂言師”としての活動が語られた。

〈100〉のジャズピアニスト小曾根真氏からは、世界中での演奏活動の裏話だけでなく、普段お聴きできない幼少期のエピソードや、コロナ禍中の 53 日間に及ぶ自宅からのライブ配信活動、最新のソロアルバムへ込めた熱い思いなどが披露された。

いずれも、コロナ対策として、席数を半数に制限したが、ほぼ満席となった。

〔入場者満足度（「とてもよかった」「よかった」は、98.7%）〕

(3) 研修生等の受け入れ

中学生のトライやるウィークは中止、高校・大学生のインターンシップ、各種団体の視察見学などに応じているが、コロナ禍により少数にとどまった。

(4) ピッコロ実技教室の開催

「ちゃっと！狂言～入門編～」については、開催期間を 2 日間に短縮して実施したが、新たな試みとして、客席のある大ホールに能舞台を設営して実施したことで参加者には好評だった。

「まわしよみ新聞&演劇ワークショップ〈壁新聞を演じてみる〉」では、コロナ禍で高校演劇部員が参加できなくなり、中高年へ新たにアプローチするなど、参加者層の拡大を図った。また、劇団員のコロナ禍での演劇ワークショップの手法（非接触、非言語等）を取り入れ、感染リスクを最小限に抑えながら実施した。参加者からは、「新聞記事から台本に変わるというものがすごく良かったです。」等の高く評価された。

令和 4 年 3 月の「ピッコロオペラ教室」は、コロナ禍により、令和 3 年 8 月から令和 4 年 3 月に一旦延期したものの、再度、中止した。

4 コロナ禍による新たな取組—ピッコロ動画配信—

ピッコロシアターとピッコロ劇団の事業・公演について、より幅広い客層に関心を持ってもらい、コロナ収束後は、実際に足を運んでもらえるよう、SNSやホームページ等を通じて、PR動画、劇団員による紙芝居の読み聞かせ、朗読ムービー、歌唱リレー、劇場探検ツアーなど、新たなコンテンツ配信などの取組を進めた。

区 分	内 容					
「#またピッコロで会いましょうプロジェクト」	コロナ禍で演劇などの鑑賞機会が減った方に向けて、ピッコロ劇団員がツイッターやYouTubeなどを活用して自宅で気軽に楽しめる取組を提供。					
	①オンライン版 「おはなしBOX」	普段、ピッコロ劇団が図書館や公民館、子育てサークルなどで行っている取組「あつまれ！ピッコロひろば おはなしBOX」をオンラインで実施。劇団員が脚本・絵・朗読を担当し、地元の民話や古典落語などを元にした紙芝居を動画配信。多言語（英語）・聴覚障害者にも配慮し字幕をつけた。				
	タイトル		制作（ピッコロ劇団員）	字幕なし	日本語字幕	英語字幕
	第1弾「名月姫と松王丸」 第2弾「富松町の鬼 茨木童子」		風太郎	○	○	○
	第3弾「古典落語 釜ぬすつと」 第4弾「古典落語 粗忽の使者」		風太郎、岡田力、三坂賢二郎	○	○	—
	第5弾 グリム童話① 「ロバの王子」		車貴玲、金田萌果、有川理沙、田渕詩乃、吉江麻樹、風太郎、三坂賢二郎、岡田力	○	○	—
	第6弾 グリム童話② 「ハツカネズミと小鳥とソーセイジの話」 ★3年度追加		田渕詩乃、吉江麻樹、有川理沙、金田萌果、鈴木あぐり、岡田力、風太郎、車貴玲	—	○	—
	第7弾 グリム童話③ 「狼と七匹の子ヤギ」 ★3年度追加		車貴玲、風太郎、金田萌果、田渕詩乃、鈴木あぐり、吉江麻樹、有川理沙、谷口遼、岡田力	—	○	—
②紙芝居 「グッドガールシンシア」	ピッコロ劇団第66回公演『夢をみせてよ』関連企画として製作した、宝塚市の介助犬シンシアの物語を紙芝居『グッドガール シンシア』として動画配信 <字幕なし版><日本語字幕版><英語版> (風太郎、吉江麻樹、三坂賢二郎、岡田力)					
③朗読ムービー 「放課後の時間割」	児童文学作家：岡田淳氏の「放課後の時間割」から選りすぐりの物語を劇団員が朗読 (平井久美子、橘 義、鈴木あぐり、谷口 遼)					
④『さらっていったよピーターパン』より 「おいかけあい」	ピッコロ劇団前代表・別役実氏によるピッコロ劇団ファミリー劇場への初の書き下ろし作品『さらっていったよピーターパン』から、劇団員による「おいかけあい」（作曲＝氷見嘉章）のナンバーを過去の上演映像とともにリレー式で歌唱 (劇団員 26 名)					
⑤『ピッコロシアター劇場探検ツアー』	劇団員：本田千恵子と人形のミミちゃんによる、普段みることのできない劇場機構の裏側を紹介する劇場探検ツアー <シアター編><劇団編> (本田千恵子、風太郎、三坂賢二郎、木村美憂)					

	⑥Twitter 企画 『30秒 de 名台詞』	劇団員が思い入れのあるセリフをリレー式に 30 秒で紹介 (岩松代表と劇団員 21 名)
	⑦Twitter 企画 『30秒 de 演劇本』	劇団員等がピッコロシアター資料室蔵書の中からお薦め 図書を 30 秒で紹介 (紹介本は閲覧室配架、貸出可能) ★3 年度新企画
劇場・劇団 の P R 動画	①ファミリー劇場の P R 動画『ようこそ冒険 の広場へ』	ファミリー劇場のダイジェスト版を H P にアップし、ピ ッコロ劇団公演の作品と魅力を動画で配信 (「またピッコロで会いましょう」「ファミリー劇場は冒 険でいっぱい」)
	②ピッコロシアター魅 力発信事業による P R 動画の配信	劇場の取組を紹介する P R 動画を H P で配信 (構成) ①ピッコロシアター編 (日本語字幕・手話通訳 付き、英語字幕付き)、②ピッコロ演劇学校・舞台技術学 校編、③ピッコロ劇団編
ピッコロサポートクラブ オンライン企画「稽古場ライブ配信」		稽古場での「おでかけステージ (「学校ウサギをつかまえ ろ」) の」通し稽古を会員向けにライブ配信 (R3.10.24 実 施) (24 名視聴) ★3 年度新企画
「県民芸術劇場」公演演目の P R 映像 (県民芸術劇場支援事業※)		3 年度公演を映像で P R (対象) 小学校公演「学校ウサギをつかまえろ」 ※「県民芸術劇場」登録団体の舞台芸術の P R 映像を W e b 上で配信し、市町・小学校・高校等が「県民芸 術劇場」の実施を検討する際に活用してもらう芸術文 化協会事業)
ピッコロ劇団公演第 71 回公演 「いないものだけ手に入る」 アーカイブ配信		劇団公演初のアーカイブ配信を実施 (配信期間: R3.10.28~4.4.30) ★3 年度新企画

【動画配信事業 評価】

- コロナ禍で演劇などの鑑賞機会が減った方に向けて、ピッコロ劇団員がツイッターやユーチューブなどを活用して自宅で気軽に楽しめる取組を提供するなど、コロナ禍での新たな試みを昨年度に続き実施した。今後もオンラインによる動画配信などを補完的に活用しながら、新たな客層の開拓や劇場に足を運んでももらえるような企画を継続していく。

5 施設の管理運営事業

(1) 劇場施設の利用状況

青少年の演劇、音楽、舞踊等の創造活動を促進するとともに、県民文化の高揚を図るために設置された「県立尼崎青少年創造劇場 (ピッコロシアター)」の指定管理者として、鑑賞劇場、文化セミナー等の自主事業を実施するほか、施設の適切な管理と運営、演劇、音楽、舞踊等の舞台芸術を創造しようとする県民の練習・発表の場として、ホールや練習室などを広く提供している。

【所在地】 尼崎市南塚口町 3 丁目 17 番 8 号

【施 設】 大ホール (客席数 396 席) / 中ホール (収容 200 人) / 小ホール (収容 100 人)
楽屋 (6 室) / 練習室 (3 室) / 資料室 (閲覧スペース・書庫) / 舞台美術工房 等

【ホール等利用実績】

利用者数 令和 3 年 4 月～4 年 3 月 58,300 人 (前年度同期 29,120 人)

利用率 令和 3 年 4 月～4 年 3 月 84.0% (前年度同期 74.9%)

【利用状況】

区 分	利用者数（人）		利用率（％）	
	2 年度	3 年度	2 年度	3 年度
大ホール	13,159	27,181	74.1	86.8
中ホール	4,188	10,596	67.8	84.7
小ホール	6,886	11,235	76.1	85.1
練習室	4,213	8,086	77.2	82.4
展示室（～R1） 閲覧室（R3.1～）	605	1,031	—	—
資料室（～R1） 書庫（R3.1～）	69	171	—	—
計	29,120	58,300	74.9	84.0

（注）展示室及び資料室は令和元～2年度の大規模改修工事により閲覧室及び書庫にリニューアル。閲覧室及び書庫は令和3年1月より供用開始。

【利用料収入】

（単位：円、税込）

区 分		利 用 料 収 入	
		2 年度	3 年度
ホ ー ル 等	大ホール	1,935,079	5,658,300
	中ホール	620,600	1,566,600
	小ホール	1,325,650	1,885,950
	楽屋	352,140	801,150
	練習室	923,325	1,697,200
	展示室(R1 まで)	—	—
	ホール等計	5,156,794	11,609,200
付属設備		2,264,850	5,407,550
合 計		7,421,644	17,016,750

（参考）近年実施した主な施設改修

《令和3年度》

- ・ 動画配信のためのW i - F i 整備（各ホール・楽屋・練習室・閲覧室及び別館稽古場に設置）
- ・ ホールのロスナイ（換気システム）の改修

《平成29～令和2年度》

- ・ 別館稽古場の換気設備改修(令和2年度)
- ・ 大ホールホワイエに障害者等対応エレベータを設置(令和2年度)
- ・ 展示室を劇場利用者同士の交流が図れる閲覧スペース等に改装、書庫を整備
(令和元～2年度)
- ・ ホール天井照明のL E D 化、練習室の防音換気機能向上(令和元～2年度)
- ・ 小道具等が製作できる舞台美術工房を大ホールB 1 階に整備(令和元年度)
- ・ トイレの完全洋式化、おむつ交換台、授乳室の設置（平成29～令和元年度）

(2) 情報の提供・発信

ア 演劇等舞台芸術関係資料の提供

青少年などの幅広い創造活動を支援するため、令和元年度に整備したピッコロシアター資料室（閲覧室・書庫）において、演劇・音楽・舞踊などの舞台芸術専門書等の閲覧・貸出を行うとともに、照会にも対応。

【新・資料室（閲覧室・書庫）について】

- ・開室時間：10:00～18:00（資料の閲覧請求・貸出受付時間：13:00～17:00）
- ・1人3冊、2週間まで貸出
- ・蔵書検索システム（スマホ対応）・閲覧室内の検索システム端末などで資料を検索
《蔵書検索へのアクセス》<https://piccolo-library.opac.jp>
- ・閲覧室で自由に閲覧可能
- ・閲覧室には、高校演劇などの台本を設置（開架式）

【閲覧状況】令和3年4月～4年3月 296名

【貸出状況】令和3年4月～4年3月 221冊

イ ピッコロ・ホームページの運営

主催事業や劇団公演について、ビジュアルを工夫してタイムリーに発信。

※ URL <https://piccolo-theater.jp>

【アクセス数】令和3年4月～4年3月 100,451件

ウ SNSの活用

劇場・学校の日々の動きや公演に向けた劇団員の稽古の様子などをタイムリーに発信。

- ・インスタグラム 登録者数 900
- ・フェイスブック 登録者数 900
- ・ツイッター 登録者数 1,000

エ 定期刊行物の発行・配付

月間催し物案内（毎月）やピッコロ劇団後援会機関紙「into」（年4回、各2,000～3,000部程度）を発行し、来館者、近隣の公共施設や文化施設等に配付。

オ 芸術文化情報コーナー

館内の2箇所に芸術文化情報コーナーを設置。県内外施設の芸術文化関連のイベント、チラシや情報誌を配架し、来館者に情報提供。

カ 広報媒体を通じた発信

- ・定期的なプレスリリース送付に加え、公演形態・稽古スケジュール等に応じた記者会見や稽古取材（コロナ禍で見合わせ）、個別インタビュー、新聞社訪問、劇団員等の在阪メディアへの出演を適宜実施。
- ・地元FM局にピッコロシアター・ピッコロ劇団コーナーを運営。
FM尼崎「ピッコロ通信」毎月第1・3木曜
「こちら、阪神南県民センターです」（約2カ月に1回、劇場の事業紹介）
FM宝塚「ピッコロ劇団公演情報」毎月第2木曜

〔劇団公演等にかかる記者会見、主な個別取材の状況など〕

劇団公演関係	メディア・掲載日など
オフシアターVol.36「もういちど、鴨を撃ちに」	(個別取材)4/2:神戸新聞
第70回公演「スカパンの悪だくみ」	(記者会見)4/12:中ホール (個別取材)5/11:ラジオ関西
第71回「いないものだけ手に入る」	(オンライン会見)9/8
わくわくステージ「グリム兄弟！」	(個別取材)12/6:神戸新聞
第72回公演「脚気にしやがれ！」	(記者会見)1/21 中ホール (個別取材)2/1:ラジオ関西

劇場事業関係	メディア・掲載日
いいむろなおきマイムカンパニー「オリンピアの夢」	(個別取材)3/26:神戸新聞・読売新聞 4/1:毎日新聞、4/11:産経新聞 5/10:読売新聞
ピッコロシアター鑑賞劇場「生演奏で紙芝居グッドガールシンシア」	(個別取材)6/4:毎日新聞 6/18:神戸新聞 6/24:毎日新聞
ピッコロシアター鑑賞劇場 文学座「熱海殺人事件」	(個別取材)8/16:日経新聞 8/24:毎日新聞 8/25:神戸新聞 9/2:毎日新聞 8/26:産経新聞

劇団員インタビュー、ピッコロ劇団に係る論評など ※():劇団員等関係者	媒体名
「ピッコロ劇団員自ら企画、指針なくした男の喜劇」(島守辰明、堀江勇氣)	神戸新聞(4/2)
「演劇のハコ」(田房専門員)	毎日新聞 (4/8、5/13、6/10)
「もういちど、鴨を撃ちに」劇評	テアトロ(7月号)
「関西弁炸裂、エネルギー」	産経新聞(5/13)
「スカパンの悪だくみ」劇評	日経新聞(6/1)
「スカパンの悪だくみ」劇評	テアトロ(8月号)
「関西期待の俳優」(孫高宏、森万紀、風太郎、田渕詩乃)	テアトロ(5月号)
「文化芸術「必要」とされるために」(平井久美子)	朝日新聞(6/21)
「いないものだけ手に入る」劇評	毎日新聞(10/28)*全国版
「いないものだけ手に入る」劇評	テアトロ(11月号)
「関西からピッコロ劇団など大賞」	朝日新聞(1/15)
「2021 舞台ベストワン」(いないものだけ手に入る)	テアトロ(3月号)
「字幕付きの演劇を上演」	神戸新聞(12/6)
「補助犬紙芝居 小学生が上演」(吉江麻樹)	毎日新聞(1/11)
「脚気にしやがれ！」劇評	大阪日日(4,5/3)
ひょうご発信(平井久美子、樫村千晶、橘義)	サンテレビ(2/13)
「関西現代演劇俳優賞」(三坂賢二郎)	毎日新聞(4,3/24)

【施設の管理運営事業 評価】

令和2年度に続き、新型コロナ感染拡大防止のため、所要の工事を行った。

- 動画配信のため、Wi-Fi 設備を各ホール、楽屋、練習室、閲覧室及び別館稽古場に整備した。
- ホールの換気システム(ロスナイ換気扇)の改修を行い、換気能力の改善を図った。
- 貸館利用者を対象に9月から12月にかけて実施した抽出調査では、「大変満足」「満足」の合計は、開館時間85.5%、施設・サービス84.7%、清潔さ92.4%、スタッフ94.9%の評価であった。

新型コロナウイルス感染症拡大への対応

基本方針

「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」の策定による感染予防対策の徹底及び安全・安心な運営（兵庫県対処方針中「イベントの開催自粛要請等」に基づく対応が基本）

令和３年度における緊急事態宣言等の状況

区分	措置期間	
	「緊急事態宣言」	「まん延防止等重点措置」
令和３年４月５日		4/5～4/24
令和３年４月２５日	4/25～5/11 →6/20 まで延長	
令和３年６月２１日		6/21～7/11
令和３年８月２日		8/2～8/19
令和３年８月２０日	8/20～8/31 →9/30 まで延長	
令和４年１月２７日		1/27～2/20 →3/21 まで延長

〔ピッコロ劇団公演・ピッコロシアター鑑賞劇場等主催事業〕

三密の回避に向けて、県の対処方針等に基づき、席数・参加者数を定員の半数以下に抑制（※）、劇団員・関係スタッフのＰＣＲ検査の公演前実施をはじめとする各種感染防止対策の徹底を図るとともに、劇団公演のアーカイブ配信など新たな取り組みも開始。

※ ４～９月は、入場者数を５０％以下に抑制して対応。

１０月以降は、最前列の１～２列を空席にした上で席数制限を解除、定員を上限として対応。

〔貸館事業〕

利用者にガイドラインの遵守をお願いし、感染予防対策の徹底を維持。

新型コロナウイルス感染拡大の影響と対応

※ 動画配信関係は（６）～（１０）

- （１） ピッコロ劇団公演、劇団員の外部指導
 - ・中学生のための演劇鑑賞体験事業「わくわくステージ」（５～６月期）は、３回目の緊急事態宣言発出により、公立校を中心に１３校が観劇中止（私立等８校が観劇）
 - ・１２月のファミリー劇場（芸文センター）での子ども達（例年約２０名）の出演は昨年度に引き続き取り止め
 - ・ピッコロ劇団員及び関係スタッフへの劇団公演前ＰＣＲ検査の継続実施
 - ・緊急事態宣言の発出等に伴う外部指導・外部出演の延期・中止
 - ・第７２回本公演（２／１８～２０）における出演者のコロナ陽性に伴う代役対応
- （２） 鑑賞劇場における演目の変更

シアタースタート（９／１０）の演目について、当初は０～１歳児を対象とした①「ハイハイ、ごろへん。」と②２～３歳児を対象とした「ピーかぶー」の２本を上演予定であったが、①については、新型コロナウイルス流行状況下で、乳児との一定の距離確保が困難なため、①を取り止め、②を２回上演。
- （３） ピッコロ演劇学校・ピッコロ舞台技術学校での感染対策の徹底
 - ・授業時の検温、手指消毒、マスク着用、靴裏消毒、機材消毒の徹底
 - ・入学式、校外学習の中止
 - ・演劇学校の休講：５、９、２月に６回（学校生の新型コロナ感染に伴う）
 - ・舞台技術学校の授業時間短縮：４、５月に２回（閉館時間の繰上げに伴う）
 - ・発熱症状のあった生徒にはＰＣＲ検査受診を要請、陽性の場合は２週間の出席停止
 - ・演劇学校における秋の前期発表会は、コロナ禍で休講が発生するなどにより、練習・準備が十分整っているとはいえない状況にあったため、規模の縮小、入場者を大幅制限して実施
 - ・演劇学校のオープンキャンパスは、密を避けるため大幅な人数制限を実施
(通常期 50 人→今回 19 人)

また、技術学校のオープンキャンパスは、同様の理由から体験ブースを離し、バックステージツアーも３班に分けて開催

 - ・合同卒業公演は、出演者は全員マスク着用、加えて前５列までは観客を入れず、入場者を制限して実施
 - ・修了式は簡素化して実施
- （４） 館内の衛生面での感染予防対策の継続
 - ・手指消毒液、受付用アクリル板設置、サーモグラフィなど検温システム稼働、兵庫県新型コロナ追跡システムの活用、練習室・楽屋等の空気清浄機稼働、別館稽古場の換気設備稼働、ホール内ロスナイ（換気システム）の改修、ＣＯ２センサによる二酸化炭素濃度測定
 - ・特別清掃（大ホール客席の全シートなどへの除菌・抗ウイルスコーティング加工）の実施
 - ・ピッコロ主催公演及び貸館利用においては、舞台打合せだけでなく、感染予防の打合せも実施するとともに、感染防止チェックリストによる点検を実施
- （５） 緊急事態宣言期間等での貸館予約のキャンセルに係る施設利用料の返金

コロナ禍により貸館のキャンセルを希望した場合、施設利用料を全額返金
- （６） Wi-Fi 設置によるオンライン配信環境を整備【R3 整備】

本館のホール・楽屋・練習室・閲覧室及び別館の稽古場に Wi-Fi を整備し、配信環境を整備（文化庁及び兵庫県の補助事業を活用）

(7) 「#またピッコロで会いましょう プロジェクト」など動画配信の推進

PR動画などのコンテンツ配信を継続実施

- ① ピッコロ劇団員が地元の民話・古典落語の紙芝居や児童文学の朗読ムービー、劇場探検ツアー、ピッコロ劇団員による歌唱リレー、演劇作品の名台詞紹介などをオンライン配信

【R3 追加コンテンツ】

＊ オンライン版「おはなしBOX」における紙芝居の追加（ピッコロ劇団員が脚本・絵・朗読を担当して配信）：グリム童話「ハツカネズミと小鳥とソーセージの話」「狼と七匹の子ヤギ」

＊ Twitter 企画「30 秒 de 演劇本」（お薦めの演劇本を劇団員等が紹介）

- ② ピッコロシアターの歴史・取組などを紹介するPR動画（劇場編、演劇学校・舞台技術学校編、ピッコロ劇団編）をホームページで配信

(8) 第71回公演「いないものだけ手に入る」のアーカイブ配信（10～4月）新

コロナ禍の中、文化庁芸術祭賞大賞を受賞したピッコロ劇団の演劇を自宅でも楽しめるようアーカイブ配信を試行的に実施 ※有料配信（視聴者数 76 名）※ R4.3 現在

(9) ファミリー劇場（12月芸文センター公演）での対応

終演後の役者と子ども達との触れ合いに替えて、カーテンコールにおいて、会場の観客と一緒に手話や振り付けで楽しむクリスマスソング（きよしこの夜、赤鼻のトナカイ）を企画、その際、事前にネットで手話や振り付けを動画配信

(10) ピッコロサポートクラブ会員と劇団員とのオンライン交流会（10月）【R3 新企画】

総会を取り止め、代わりに小学校公演のおでかけステージ「学校ウサギをつかまえる」の通し稽古を「稽古場ライブ配信」として会員に配信（視聴者数 24 名）

〔本部関係〕

芸術文化普及啓発事業

1 主催事業

(1) 芸術文化活動の表彰事業

① 第40回ふるさと文化賞

地域社会において、永年にわたりひたむきな努力を続け、伝統文化の継承に貢献するなど、その活動と功績が著しい1個人3団体に贈呈した。

【贈呈式】 令和4年1月25日

【会 場】 兵庫県民会館

【受賞者】 武地 秀実 (人形芝居・西宮市)

杉原紙振興ボランティア (杉原紙・多可町)

竹田地区松明祭保存会 (防火祈願神事・朝来市)

淡路木偶づくり講座 (人形木偶づくり・南あわじ市)

② 亀高文子^{せきそうしや}記念－赤艸社賞

絵画の創作活動を通じて県民文化の高揚に功績があった女流洋画家に贈呈した。
令和2年度の受賞作品を、兵庫県民会館内に展示し、受賞者に作品発表の機会を提供した。

【贈呈式】 令和4年3月1日

【会 場】 兵庫県民会館

【受賞者】 赤松 玉女 (京都市立芸術大学理事長・学長)

【記念展】 柴田 知佳子 (令和2年度受賞者)

令和3年7月19日～8月1日

兵庫県民会館1階特別展示室壁面

③ 坂井時忠音楽賞

県内において音楽活動に優れた業績をあげ、将来の活躍が期待される音楽家を奨励するため贈呈した。

【贈呈式】 令和4年3月1日

【会 場】 兵庫県民会館

【受賞者】 杉田 恵理 (ヴィオラ・神戸市)

④ ひょうごアーティストサロン賞

ひょうごアーティストサロンの事業に積極的に参加し、将来一層の活躍が期待される新進・若手アーティスト及びサロンの企画・運営に協力いただいた指導者に贈呈した。

【贈呈式】 令和4年3月7日

【会 場】 兵庫県民会館

【受賞者】 〈アーティスト部門〉 土井 美佳 (ヴァイオリン・姫路市)

花柳 知香之祥 (日本舞踊・神戸市)

〈協力者部門〉 福羽 弘子 (日本画・神戸市)

(2) コンクール、展示事業

① 第33回全国手工芸コンクール in ひょうご〈県補助〉

女性を対象とし、ふだんの生活から創りだされた、ぬくもりのある手工芸作品を全国から公募し、優秀な作品に文部科学大臣賞、知事賞等を贈呈した。

【会 期】 令和3年11月19日～21日

【会 場】 原田の森ギャラリー

【出品数】 195点

【入場者】 904人

② 第27回兵庫ふれあい美術展〈県補助〉

県内の美術愛好家から日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真作品を公募し、全ての応募作品を展示するとともに、優秀な作品に知事賞等を贈呈した。

実施にあたっては「鈴懸の径絵画部門」を新設した。

【会 期】 令和3年12月24日～26日

【会 場】 原田の森ギャラリー

【出品数】 440点

【入場者】 約850人

③ 第58回2021県展

県内に生活し、日頃から美術作品の制作活動に励んでいる方を対象に、絵画、彫刻・立体、工芸、書、写真、デザインを公募し、入選作品の展示を行い、優秀な作品には県展大賞等を贈呈した。

【会 期】 令和3年8月7日～21日

【会 場】 原田の森ギャラリー

【応募数】 522点（入選作品201点）

【入場者】 2,309人

【共 催】 兵庫県・兵庫県立美術館・神戸新聞社

④ 兵庫県民会館文化教室総合展【中止】

兵庫県民会館で実施されている、美術・書道等さまざまなジャンルの文化教室の作品を一堂に展示し、受講生の交流や発表の場として計画していたが、新型コロナウイルス感染症により中止した。なお、一部の教室については教室ごとに作品の壁面展示を順次、行っている。

⑤ 新進美術家作品展の開催〈県補助〉

県内各美術団体の協力を得て、新進作家を中心とした作品展を開催した。

・ひょうごアーティストサロン内

事業名	開催年月日	出展人数(人)	入場者(人)
兵庫二紀会選抜展	3.4.1～5.31	2	75
兵庫県写真作家協会新進作家選抜展	3.6.1～7.31	7	110
兵庫県美術家同盟新進作家展	3.8.2～9.30	9	131
兵庫の工芸 壁面を飾る	3.10.1～11.30	4	135
兵庫県書作家協会選抜展	3.12.2～4.1.31	6	136
兵庫県日本画家連盟選抜展	4.2.1～3.31	7	150
合 計	255日	35	737

・兵庫県民アートギャラリー特別展示室

事業名	開催年月日	出展人数(人)	入場者(人)
兵庫県工芸美術作家協会選抜展	3.9.8～12	7	162
第2回ひょうごアーティストサロン賞 受賞者記念展	4.2.2～6	5	262
兵庫県彫刻家連盟特別展	4.3.2～6	15	259
合 計	15日	27	683

・兵庫県民アートギャラリー大・中展示室

事業名	開催年月日	出展人数(人)	入場者(人)
兵庫県美術作家交流展 新進・選抜・プラス	3.12.15～19	103	695

⑥ 造形芸術活動支援事業【新規】〈県補助〉

絵画、彫刻、いけばな等の造形芸術分野を対象に、オンライン等により会場外からも鑑賞できる展覧会に対しての開催経費を支援した。

【申請件数】 10件

【助成金額】 755千円

⑦ ひょうごの造形芸術オンラインギャラリーの構築・運用【新規】〈県委託〉

ウイズコロナを見据え、Web上にポータルサイト「ひょうごの造形芸術オンラインギャラリー」を構築し、造形芸術アーティストのオンラインでの作品発表に活用するなど、活動を支援した。

【期 間】 令和3年12月20日～令和4年3月31日

【アクセス数】 776件

(3) 主催公演事業

① 県民芸術劇場〈県補助〉

小学生・高校生、一般県民が優れた舞台芸術を身近に鑑賞し、県内芸術団体等が活動する機会として県民芸術劇場を開催した。

新型コロナウイルス感染症により、約3割の公演が開催日を変更し、約2割の公演が中止となった。また、分散実施の場合は2回目公演の出演料を協会負担限度額の範囲内で支援したほか、複数の小学校が合同で実施する場合や生徒数の多い高校は、市町文化ホール等を利用できる等の対応を行った。

種 別	3年度		協会支出額(千円)	
公演ジャンル	公演数	入 場 者 数	3 年 度	2 年 度
一般公演	13	4,237	10,030	11,291
音 楽	9	3,041		
演 劇	3	1,053		
伝統芸能	1	143		
高等学校公演	17	10,256	6,638	4,529
演 劇	4	2,428		
音 楽	7	3,882		
伝統芸能	6	3,946		
小学校公演	38	14,064	8,174	3,553
音 楽	21	7,987		
演 劇	7	2,384		
伝統芸能	8	3,007		
ミュージカル	2	686		
合 計	68	28,557	24,842	19,373

※中学校公演は、全ての県内中学生を対象に「わくわくオーケストラ教室」等を実施していることから、県民芸術劇場の対象外。

② 次世代応援舞台芸術支援事業【新規】〈県補助〉

新型コロナウイルス感染症により減少した子どもの舞台鑑賞機会や県内の若手アーティストの活動機会を提供するため、県内文化施設等において実施される音楽・演劇等で、一定数の座席を学生（小、中、高校、大学生等）向けに無料とする公演の経費を支援した。

【助成件数】 32件

【助成内容】 市民ミュージカル、ニューイヤーコンサート、県内落語家による一門会 等

【助成金額】 12,774千円（助成率1/2・上限500千円）

【鑑賞者数】 7,752人

【うち無料】 1,728人

(4) 講座・体験等事業

① 兵庫県生活文化大学

日々の暮らしに夢と潤いのある生活文化を創り育てるため、県立美術館、歴史博物館、考古博物館等に講師を依頼するなど、県や芸術文化団体と連携しながら最新の研究成果が学べる講座として、生活文化大学を開催した。

【通年講座】

講 座 名		開催地	会 場	期間(回数)	受講者(人)
神戸校	文化財	神戸市	兵庫県民会館 ほか	5～2月 (10)	33
	考古学 (県立考古博物館)			4～2月 (10)	40
	西洋美術 (県立美術館「芸術の館友の会」)			4～2月 (10)	47
	日本美術【中止】			—	—
	ふるさとの歴史			4～2月 (9)	57
	音楽鑑賞 (兵庫県音楽活動推進会議)			5～3月 (10)	53
明石校	ふるさとの歴史 (明石市)	明石市	明石市生涯学習センター	6～2月 (10)	55
姫路校	ふるさとの歴史 (県立歴史博物館)	姫路市	県立歴史博物館、日本城郭研究センター ほか	9～3月 (7)	27
合計		8 講座⇒7 講座		73 回⇒66 回	312

※()は共催団体等

【短期講座】

講 座 名		開催地	会 場	期間(回数)	受講者(人)
展覧会特別鑑賞講座～颯川コレクション・梅舒適コレクション受贈記念展～		神戸市	兵庫県立美術館「芸術の館」	5月 (1)	28
文楽鑑賞講座・文楽 in hyogo「義士銘銘伝 弥作鎌腹の段」鑑賞会		神戸市 西宮市	兵庫県民会館、 兵庫県立芸術文化センター	6～7月 (2)	17
美術品輸送講座～輸送のエキスパートが明かす展覧会の裏側～		神戸市	兵庫県民会館	7月 (1)	39
展覧会特別鑑賞講座 アイノとアルヴァ 二人のアールト【中止】		神戸市	兵庫県立美術館「芸術の館」	—	—
展覧会特別鑑賞講座 ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展		神戸市	兵庫県立美術館「芸術の館」	12月 (1)	36
曾我蕭白～ひょうごゆかりの「奇想の画家」		神戸市	兵庫県民会館	1月 (1)	38
合計		6 講座⇒5 講座		7回⇒6 回	158

② 地域と暮らしの兵庫学

摂津・播磨・但馬・丹波・淡路の五つの国からなる兵庫県のすばらしい地域文化を学び、あわせて古くから伝わる伝説や歳時記、伝承の行事の様式の考察等をして、ふるさと意識を高める短期講座を開催した。

【開催日】 令和3年10月～令和4年3月（4回）

【会場】 兵庫県民会館 けんみんホール

【講師】 田辺 真人氏（園田学園女子大学名誉教授）

【参加者数】 146人

③ 伝統文化ふれあい広場〈県補助〉

伝統文化の新たな担い手を発掘するため、県域文化団体等の協力を得て、子どもたち（親子連れ）をはじめ幅広い層の県民が、様々な伝統文化を一堂に体験するブース等を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症により開催を中止した。

④ 伝統文化体験教室〈県補助〉

関係文化団体等との共催で、体験教室を開催することにより、県民が伝統文化に触れる機会を提供した。

【時期】 令和3年5月～令和4年1月

【回数】 12回

【会場】 兵庫県公館和風会議室

【参加団体】 兵庫県舞踊文化協会ほか7団体

教室名・回数	団体名	参加者(人)
日本舞踊のススメ（1）	兵庫県舞踊文化協会	6
いけばなのススメ（2）	兵庫県いけばな協会	30
シャトーボックスのススメ（1）	兵庫県婦人手工芸協会	6
須磨琴のススメ（1）	一弦須磨琴保存会	6
箏のススメ（1）	兵庫県箏弦連盟	5
茶席のススメ【中止】	兵庫県茶道協会	—
能楽のススメ（4）	公益社団法人能楽協会神戸支部	25
長唄のススメ（1）	松耀会	6
三味線のススメ（1）	日本民謡民舞兵庫県連合会	7
合計	9分野⇒8分野（15回⇒12回）	91

⑤ 伝統文化学び塾〈県補助〉

伝統文化への関心を高め、学び続ける人を養成するため、須磨琴や箏、長唄を7回にわたって学び、発表会まで行うコースを開催した。

【開催日】 須磨琴コース：稽古/令和3年7月～9月 発表会/9月

箏 コース：稽古/令和3年7月～9月 発表会/9月

長唄コース：稽古/令和4年1月～3月 発表会/3月

【会場】 稽古：兵庫県公館和風会議室

発表会：須磨琴・箏コース 県立芸術文化センター阪急中ホール
（ひょうご邦楽の祭典のプログラムとして）

長唄コース 兵庫県民会館7F鶴の間

【参加者数】 各コース7人

⑥ 友の会会員事業の推進

芸術文化に関する学習や交流事業を通じて、生きがいくりと相互の交流を図るため、友の会会員を対象とした事業を推進した。

兵庫県芸術文化協会友の会会員

令和4年3月31日現在

	個人会員	ファミリー会員	団体会員
友の会会費	1口 3,000円	1口 5,000円	1口 10,000円
会 員 数	635人	96人(48組)	60団体

【特 典】・文化情報紙「すずかけ」の送付（毎月）

- ・研修事業への参加・生活文化大学等の受講料等の割引
- ・指定美術館・博物館等の入館料割引
- ・提携ホールのチケット料金やホテルの利用料金等の優待

(ア) 研修事業の実施

県内外の人文・自然資源、文化史跡等を訪ね、先人が育んできた歴史・芸術文化にふれ、そのすばらしさを学ぶとともに、会員相互の交流と親睦を図った。新型コロナウイルス感染により、長時間の移動や一定の人数での飲食を伴う「ふるさと文化紀行」「至宝の文化財を訪ねて」「ふれあいの旅（海外）」「ふれあいの旅（国内）」等は中止した。

【ふるさとウォーク】

事 業 名	開催年月日	場 所	参加者(人)
埴岡真弓先生と歩く ウナイ乙女伝説の地一簾の宮から処 女塚古墳までー	3. 11. 2	神戸市	21
計 1 事業（1回）			21

(イ) 文化情報紙「すずかけ」の送付

友の会会員に対して毎月、文化情報紙「すずかけ」を送付し、情報を提供した。

【主催事業 評価】

○表彰事業

・ふるさと文化賞

永年にわたり裏方に徹し、地域に貢献している者を顕彰するものであり、地元以外での発表の場を設けることにより、受賞者からは、これからも継続的に取り組む気持ちになったとの声が寄せられた。

・亀高文子-赤艸社賞は女性洋画家が、坂井時忠音楽賞は若手音楽家が目指す賞の一つとして定着しており、洋画や音楽関係者の評価も高く、また、受賞者からは、今後の活躍の励みとなっているとの声が寄せられた。

○コンクール、展示事業

・兵庫ふれあい美術展

応募作品の全てを展示することから、作品を披露する場として定評がある。令和3年度は同じくアマチュアを対象として公募していた「鈴懸の径絵画展」を発展的に統合して実施した。（鈴懸部門は「兵庫の風物を描く」等のテーマを設けて募集）

県委託額の減少により、作品運搬費用相当額を賄うため出品を有料化したところ、応募数が対前年度比8割（約440点）に減少した。

・造形芸術活動支援事業

今回参加して、初めてオンラインギャラリーを作成したという声が複数あった。新しい作品発表のきっかけが提供できた。一方で、10月からスタートした事業のため、対象外となった展覧会が多く、「もっと早く情報が欲しい」という声が数多くあった。

・ひょうごの造形芸術オンラインギャラリーの構築・運用

県内のアーティストの新たな作品発表の場であり、ネットワークづくりの場となる事業であったが、掲載対象を限定したこと、運用期間が短かったこと等から、掲載件数が少なかった。

○鑑賞機会の提供

・県民芸術劇場

新型コロナウイルス感染症により止む無く中止となった公演分の予算を活用し、2回目公演実施への支援や分散実施の支援を行い、コロナ禍にあっても生の舞台を鑑賞できる機会の確保に努めた。鑑賞した県民や児童生徒からは「手頃な料金で本物の芸術鑑賞ができてありがたい。」「地方で伝統芸能に触れることができ感動した。」などの感想をいただき、芸術文化に関心を引き付ける事業として高く評価されている。

○学習機会の提供

・生活文化大学

新型コロナウイルス感染症により1講座が中止となり、7講座の実施となった。受講者からは「是非開講してほしい」という根強い要望があったことから、感染防止対策を講じたうえで、事業を継続した。また、受講しやすい短期型の講座を複数回企画し、受講生の獲得に努めた。

・地域と暮らしの兵庫学

田辺真人氏(兵庫県文化賞受賞者)による4回シリーズの短期講座を開講した。人気の高い講座であったが、新型コロナウイルス感染症により受講生数は低調であった。

○伝統文化体験機会の提供

・伝統文化学び塾

各団体から、一度きりの体験ではなく、練習を重ねて技術を習得する喜びを味わってほしいとの声もあり、継続的に学び、その成果を大舞台で発表する機会を提供した。箏と長唄に加え、令和3年度は須磨琴コースを新設した。受講者から「伝統文化に興味をもつことができ、今後も受講したい。」「素晴らしい体験ができ幸せを感じた。」などの声が寄せられた。

○芸術文化協会友の会会員事業

会員数は、令和元年度個人 753 人/家族 54 組/団体 67 団体、令和2年度個人 650 人/家族 43 組/団体 51 団体、令和3年度個人 635 人/家族 48 組/団体 60 団体、と減少傾向にあるが、生活文化大学の受講や会員特典を利用した会員からは満足したとの声が寄せられた。

2 芸術文化団体等との連携事業

(1) 市町ホール活用支援事業〈県補助〉

市町ホールの活性化、県内公立文化施設間の連携強化を図るため、2市町のホールが音楽や演劇等の大型自主公演を共同で企画する事業を支援した。

(単位：千円)

公 演 名	開催年月日	会 場	参加者(人)	助成額
クラシック音楽謎解きミステリー音楽探偵バッハの事件録	3. 4. 3 3. 4. 4	西宮市フレンテホール	147	354
	3. 6. 27	扶桑電通なぎさホール	85	
高嶋ちさ子 音楽会	3. 5. 30	郷の音ホール	807	2,000
	3. 9. 21	田園交響ホール	417	
こどもオペラ プレーメンの音楽隊	3. 7. 31	加東市東条文化会館	183	647
	3. 8. 1	加古川ウェルネスパーク	323	
東儀秀樹コンサート～悠久の音色に包まれて～	3. 8. 29	生野マインホール	183	1,719
	3. 11. 21	エクラホール	272	

桂吉弥 独演会	3. 8. 29	山崎文化会館	241	570
	4. 3. 25	加東市地域交流センター	385	
林家たい平 独演会	4. 2. 11	エルデホール	242	1,037
	4. 3. 20	ビバホール	185	
合 計			3,470	6,327

(2) ふれあいの祭典－県民文化普及事業〈県委託〉＊

県民文化普及事業の22事業(うち11事業中止)について、県内全域に文化のすそ野を拡大していくため、県域文化団体、開催市町とともに実行委員会を立ち上げ、広報宣伝・観客誘致、開催記録の作成等を担当した。

事業名	開催年月日	会場	参加者(人)
ひょうご演劇祭	3. 8. 21	西宮市	305
和太鼓フェスティバル in 兵庫【中止】	3. 9. 5	洲本市	—
兵庫県交響楽祭	3. 9. 12	西宮市	557
兵庫県いけばな展(地域展)【中止】	3. 9. 23 ～24	洲本市	—
ひょうご邦楽の祭典	3. 9. 26	西宮市	303
ひょうご名流舞踊の会	3. 10. 3	神戸市	998
詩のフェスタひょうご	3. 10. 3	神戸市	90
ひょうご日本民謡フェスティバル	3. 10. 9	神戸市	610
兵庫県いけばな展(神戸展)	3. 10. 14 ～19	神戸市	5, 904
ひょうご洋舞フェスティバル	3. 10. 30	西宮市	1, 314
ひょうご吟剣詩舞道祭	3. 10. 31	尼崎市	700
兵庫短歌祭	3. 11. 14	神戸市	118
全国手工芸コンクール in ひょうご	3. 11. 19 ～21	神戸市	1, 132
アンサンブル・フェスティバル兵庫 2021 in 赤穂	3. 11. 28	赤穂市	470
ひょうご合唱の祭典【オンライン配信のみ】	3. 12. 19	相生市	354
兵庫ふれあい美術展	3. 12. 24 ～26	神戸市	1, 322
兵庫県川柳祭 in 加古川	4. 2. 20	加古川市	2, 859
ひょうごブラスフェスティバル 2021	4. 2. 27	姫路市	1, 391
ひょうご民俗芸能祭	4. 2. 27	西脇市	260
音楽とダンスの祭典 in Hyogo【中止】	—	—	—
ひょうご大茶会【中止】	—	—	—
ひょうご俳句フェスティバル【中止】	—	—	—
合計			18, 687

(3) 兵庫県地域文化団体協議会への支援

地域文化の向上と振興に貢献することを目的とする兵庫県地域文化団体協議会の事務局を担当し、県内7地域で活動する地域文化団体との連携を深めた。

【兵庫県地域文化団体協議会構成団体】

- ・阪神南文化振興団体連絡協議会
- ・阪神北文化振興団体連絡協議会
- ・東播磨文化団体連合会
- ・西播磨文化協会連絡協議会
- ・但馬文化協会
- ・丹波文化団体協議会
- ・淡路文化団体連絡協議会
- ・公益財団法人兵庫県芸術文化協会

① 地域文化団体との共同事業＊

兵庫県地域文化団体協議会が、各地域において地域の核となる文化団体協議会等と共同で文化事業を実施した。

文化団体名	事業名	開催年月日等
阪神南文化振興団体連絡協議会	第26回アルカディア盲導犬とともに音楽を愛でる会コンサート	3. 6. 26 (会場:アルカディア・グレースホール(芦屋市))
阪神北文化振興団体連絡協議会	阪神北文化フェスタ	4.2.6 (会場:アステ市民プラザアステホール(川西市))
東播磨文化団体連合会	東播磨文芸誌「東はりま文化子午線第45号」の発行	4年3月発行
西播磨文化協会連絡協議会	西播磨地域ふれあい文化交流会	3. 10. 19 (会場:神崎公民館 他)
但馬文化協会	「たじま作品集－短詩型文学第46集」の発行	4年3月発行
丹波文化団体協議会	伝統文化鑑賞会	4. 1. 22 (会場:丹波の森公苑)
淡路文化団体連絡協議会	淡路文化の祭りとふるさと文化の交流 第40回全淡短歌祭 第45回淡路島俳句大会 第43回淡路文学作品展 淡路ふるさと文化交流事業	3. 7. 31 3. 11. 14 3. 11. 26～12. 9 3. 10. 30 (会場:洲本市立淡路文化史料館他)

② 地域文化を考えるシンポジウム〈県補助〉

地域文化の活性化を図るため、但馬地域に県内市町文化協会・団体の会員が一堂に会し、地域における文化振興の現状や課題、地域の特色を生かした事業の推進方策等について情報交換や協議を行った。

【開催日】 令和3年11月16日

【会場】 あさご・ささゆりホール

【主催】 但馬文化協会、兵庫県地域文化団体協議会、(公財)兵庫県芸術文化協会

【テーマ】 文化活動を活かした魅力あるふるさとづくり

【内容】 角野幸博氏(関西学院大学建築学部長・丹波の森公苑長)の基調講演および県立和田山高校生徒による実践発表 等

【参加者】 県内各地文化関係者225人

(4) ひょうご文化交流のつどい【中止】*

県域文化団体等の協賛のもと、様々な分野の文化関係者が一堂に集い、交流・親睦を深める事業であるが、令和2年度に続いて、新型コロナウイルス感染症により中止した。なお、その代替企画として、令和2年度同様、文化情報紙「すずかけ」12月号に、各分野の芸術文化関係者から寄せられたメッセージを掲載する「紙上交流会」を実施した。

(5) 芸術文化団体等の事業への支援

芸術文化団体等が主催する文化振興事業に対し、後援、協賛するとともに、優秀作品に「兵庫県芸術文化協会賞」を贈った。

【後援事業件数】 175件

【協会賞交付件数】 59件

(6) 兵庫県文化賞受賞者懇話会への支援

兵庫県文化賞受賞者で構成される、兵庫県文化賞受賞者の事務局運営等を支援し、芸術文化の振興を図った。

*は「正味財産増減計算書内訳表」の収益事業等会計に分類されるもののうち「その他の事業（芸術文化団体との連携事業）」に区分される事業

【芸術文化団体等との連携事業 評価】

○市町ホール活用支援事業

県内公立ホール間の連携を促進することで、各ホールの企画の幅を広げ、鑑賞機会の多様化につながった。観客からは「楽しい時間を過ごせた。」「コロナ禍での実施に感謝する。」などの意見をいただいた。

○ふれあいの祭典－県民文化普及事業

新型コロナウイルス感染症により5事業が中止になった。個々の事業では県域芸術文化団体及び関係市町の協力を得て実施することで、地域の文化振興と県民の交流の輪を広げることに繋がっており、参加者の満足度は93.8%と高い。

○地域文化団体との共同事業

兵庫県地域文化団体協議会が、地域の核となる文化団体協議会等と共同で毎年開催している文化事業、地域の特色を生かした文化イベントや文芸誌等の発行を行い、地域文化の振興に寄与した。

○ひょうご文化交流のつどい

新型コロナウイルス感染症により2年連続で中止となったが、昨年同様、代替事業として、紙上での交流会を開催した。「このような時期だからこそ、街、劇場、人を繋いで、音楽で元気を届けていくことを大切にしていきたい」「来年はすべての展覧会がコロナに打ち勝つ勇気と希望を与える心のメッセージとなるよう願ってやまない」などのメッセージなどをいただき、一定の代替効果を得ることができた。

3 ひょうごアーティストサロンによる県内アーティストへの支援事業

(1) 芸術文化関係者の交流・連携の促進〈県補助〉

様々な分野の芸術文化関係者がアーティストサロンに集い、出会い、語らいの場として利用され、交流の拠点としてサロン機能を発揮した。

【来場者数】 3, 349人

(2) 相談・助言・斡旋事業の実施〈県補助〉

芸術文化情報の収集・発信を通して蓄積した人材情報等に基づき、初心者から若手、中堅を問わず芸術文化活動に関する企画・PR方法等、様々な相談に応じた。

【相談件数】 183件

【さわやかステージ斡旋件数】 9件

(3) 若手アーティストの育成・支援

兵庫県民会館を活用して、新進・若手アーティストの作品展、演奏会を開催した。

① 新進美術家作品展の開催（再掲）〈県補助〉

② 県民会館ロビーコンサートの開催〈県補助〉

兵庫県民会館のロビーを活用した新進・若手アーティスト等のコンサートを開催し、活動発表の場を提供した。また、兵庫県いけばな協会の協力により、会場にいけばなを添えて芸術文化に親しむ環境の充実に図った。

公 演 名	開催年月日	いけばな	入場者(人)
木村モモギターコンサート	3.4.10	加藤美千代(池坊)	85
大森花ソプラノコンサート 【中止】	3.5.8	—	—
尾上理恵ピアノコンサート	3.6.12	梶井芳甫(未生流)	59
加茂夏来ヴァイオリンコンサート	3.7.10	富士聡子(華精流)	64
小原彩乃ハープコンサート 【中止】	3.8.21	—	—
県立西宮高等学校音楽科コンサート	3.9.11	内藤貴風(光風流)	70
塚本芙美香ピアノコンサート	3.10.9	西村翠雲(佳生流)	67
寺本純子クラリネットコンサート	3.11.13	矢野翠里(真生流)	63
吉見真帆ソプラノコンサート	3.12.11	伊藤洸明・原玉恩(御室流)	76
今西真理マリンバコンサート	4.1.8	米田さち圃(未生流(庵家))	61
ふくだむらさきヴァイオリンコンサート	4.2.12	久保丹啓・岡島眞草(草月流)	73
神戸山手女子高等学校音楽科 センプリーチェ・コンサート	4.3.12	山根裕子(真生流)	75
12公演 ⇒ 10公演			693

③ 県内芸術家ロビーコンサート〈県補助〉

新型コロナウイルス感染症により、公演等の中止が相次ぎ、県内の新進・若手アーティストの活動の場が大幅に減少していることから、会場を県民会館から県内の芸術文化施設等に応じて実施した。

公 演 名	開催年月日	出演者	入場者（人）
市川町文化センターロビーコンサート～たそがれのひととき～	3.10.2	土井美佳(ヴァイオリン) 伊藤淳介(マカフェリギター)	89
西宮市山口ホール 木田陽子ピアノコンサート	3.10.6	木田陽子(ピアノ)	85
加西市南部公民館 秋のノスタルジック オルガンコンサート	3.10.7	加門隆太朗(オルガン)	47
湊川ふれあい会館 湊川ふれあいコンサート	3.10.18	上原かなえ(フルート) 川瀬礼実子(フルート)	34
新長田合同庁舎 1 階ロビー 木村モモ ギターコンサート	3.10.26	木村モモ(ギター)	50
東りいたみホールエントランス 江戸聖一郎フルートコンサート	3.11.11	江戸聖一郎(フルート) 河合珠江(ピアノ)	57
アピカホール開館 25 周年記念事業「大西洋二郎クラシックギターの魅力」	3.11.21	大西洋二郎(クラシックギター)	31
豊岡市民プラザ ～フルートとオーボエが奏でるクリスマスコンサート～	3.12.4	田中利奈(フルート) 中嶋緑(ピアノ) 倉橋葵(オーボエ)	80
考古博物館こうこはくロビーコンサート～音楽がつなぐ今とむかし～	3.12.12	吉田侑記(ヴァイオリン) 濱本真佑花(ピアノ)	105
西脇市民交流施設オリナスホールロビーコンサート	4.2.23	清水美地留(ヴァイオリン) 春本亜美(フルート) 加門隆太朗(ピアノ)	33
潁川グリーンホール春のミニコンサート	4.3.20	森智香(フルート) 森田侑里奈(フルート)	25
合 計 1 1 公演			636

④ 新進芸術家育成事業の実施〈県補助〉

兵庫県民会館けんみんホールを利用し、「新進芸術家育成プロジェクト・リサイタルシリーズ」を開催した。

あわせて兵庫県いけばな協会の協力により舞台にいけばなを添えて鑑賞者に対して芸術文化に親しむ環境の充実を図った。

事業実施にあたっては、出演者にリサイタルの企画から実施までのマネジメントを自ら経験させ、今後演奏家としての実務に役立てられるよう支援を行った。

公 演 名	開催年月日	いけばな	入場者 (人)
根垣りのヴァイオリンリサイタル【中止】	3.4.30	—	—
大森花ソプラノリサイタル【中止】	3.5.28	—	—
安達萌ピアノリサイタル	3.6.25	松井博士(小原流)	103
杉田恵理と仲間たち～吉武優・清永あやを迎えて～	3.8.6	広川英男(池坊)	90
中村友希乃ヴァイオリンリサイタル	3.9.24	柳ひとみ(専正池坊)	128
宇治澤一光ピアノリサイタル	3.9.30	稲泉千永(千草真流)	109
上田智子ピアノリサイタル	3.10.22	中山高甫(未生流中山文甫会)	78
桝貴志バリトンリサイタル	3.11.5	熊原恵甫(未生真流)	114
鯛中卓也ピアノリサイタル	3.12.17	井上理奈子(池坊)	163
野村茉由フルートリサイタル	4.1.7	米田さち圃(未生流(庵家))	98
和田友紀菜ソプラノリサイタル	4.2.25	伊藤洸明(御室流)	114
中嶋弥生ヴァイオリンリサイタル	4.3.11	山根裕子(真生流)	154
12公演 ⇒10公演			1, 151

⑤ ひょうごアーティスト動画配信事業〈県補助〉

新型コロナウイルス感染症により、アーティストの活動の場や、県民の鑑賞の機会が減少したことから、兵庫県ゆかりのアーティストが出演・制作した動画作品を当協会のYouTube チャンネルで配信した。

令和3年度は、第3弾として、芸術文化の分野における創作活動ですぐれた業績をあげ、兵庫県または当協会から表彰された各賞受賞者の動画作品を配信した。

【配信数】第3弾 7件 (計116件)

⑥ ひょうごアーティストサロン賞 (再掲)

【ひょうごアーティストサロンによる県内アーティストへの支援事業 評価】

○ 芸術文化関係者の交流・連携の促進(サロン機能)

芸術文化コーディネーターと顧問が豊富な知識・経験とネットワークを活かし、多様な分野、幅広い年齢層の芸術文化関係者が気軽に集い、交流・連携を生み育てる場として機能した。

○ 相談・助言の実施(情報の発信機能)

平成18年度のオープン以来、アーティストに対しての相談・助言や活動支援関連の事業の情報発信等を継続して行う貴重な拠点として認知されるようになった。

○ 若手アーティストの育成・支援(発表の場の提供機能)

これまで毎月1回定期的に開催されていた「県民会館ロビーコンサート」は、年間で10回実施した。感染防止対策を講じながら、次代を担う若手アーティストらの活動成果の発表機会、気軽に県民が芸術文化に触れる機会を提供した。

○ 新進芸術家育成事業の実施

「新進芸術家育成プロジェクト・リサイクルシリーズ」を年間で10公演実施した。出演者からは「初めてのリサイクルでプログラムの構成から考えることが多く、勉強になった」「1時間以上のリサイクルを経験して、精神力や体力の大切さを学んだ」という感想をもらうなど、高い評価をいただいた。

○ ひょうごアーティスト動画配信事業

新型コロナウイルス感染症によるアーティストの発表の機会や県民の芸術文化に触れる機会が減少したことから、YouTubeによる動画配信事業を拡充し、令和4年3月末時点のチャンネル登録者数は2,476人となった。一部の動画作品については、兵庫県ワシントン州事務所のYouTubeチャンネルにおいて英訳されて配信されるなど、海外の人々にも兵庫県の芸術文化を紹介できた。

4 情報の提供

(1) 文化情報紙「すずかけ」の発行(再掲)

生活文化大学をはじめとする当協会主催事業や芸術文化団体主催事業など、芸術文化に関する情報を発信した。

【仕 様】 タブロイド版、6ページ、2色刷り

【発 行】 毎月1回 各5,000部

※ひょうご文化交流のつどいの開催が中止となり紙面上で交流を図っていただくため、12月号は増ページへと仕様変更をした。

【内 容】

- ・生活文化大学やリサイクル等の主催事業、県内の芸術文化事業
- ・芸術文化センター事業、ピッコロシアター事業
- ・文化人紹介(素顔拝見)
- ・ひょうごの国宝・重文そぞろ歩き
県内の国宝や重要文化財、歴史的・文化的な名所、テイクアウトの名店等を紹介
- ・各種文化情報

【配布先】 友の会会員、文化団体、県内各市町文化施設、報道機関ほか

(2) 文化情報の提供

兵庫県民会館に、文化情報紙、県内施設等の催し物案内チラシ等を配架し、多彩な文化情報を提供した。

(3) ホームページの運営 (<https://hyogo-arts.or.jp>)

協会概要や本部事業、各施設の公演、展覧会事業等を幅広く紹介した。

【内 容】・協会概要

・事業案内(協会主催事業等)

・管理施設へのリンク

【アクセス数】 40,561件(令和3年4月～令和4年3月)

(4) その他多面的な広報活動

① SNSの運営

- ・YouTube チャンネルでの動画配信のほか、Twitter、Facebook、Instagramを活用して、アーティスト動画やコンサート開催等の告知を行うなど、情報発信を強化した。

② マスメディア等による情報提供

- ・テレビ、ラジオ、新聞等への記者発表、資料配付等
- ・各種情報誌への情報提供
- ・動画の出演アーティストの出身校や所属団体への情報提供

③ 県内文化施設等多様なチャンネルを活用した情報提供

県立美術館、県立歴史博物館、県立考古博物館等事業を共催している施設と連携してPRを行うほか、県内の文化施設や図書館、各教育機関を通じて情報発信を行った。

【情報の提供 評価】

○ 文化情報紙「すずかけ」の発行

月1回、芸術文化に関する情報を提供し関心を高めた。芸術文化活動への参加を促すとともに、読者からは兵庫の芸術文化に関するきめ細かな情報が得られるとして好評を得ている。事業に関するQRコードを掲載するなどホームページと連携を図り、利便性を向上させた。

○ 文化情報の提供

兵庫県民会館に情報コーナーを設けて、県内の芸術文化情報を提供し、常に最新情報とすべく頻繁に更新しており、利用者に喜ばれている。

○ ホームページの運営

協会概要や本部事業のみならず、県民会館、芸術文化センター、ピッコロシアター、原田の森ギャラリー、横尾忠則現代美術館のホームページにリンクするほか、各施設の公演、展覧会事業等を幅広く紹介し、施設、事業のPRとともに文化情報の発信を促進した。

○ その他多面的な広報活動

ホームページに加えてSNSを本格的に活用して情報提供を容易にするとともに、印刷物へのQRコードの掲載など、利便性を向上させ、芸術文化に関心を持つ層の獲得に努めた。

新型コロナウイルス感染症拡大への対応

芸術家・芸術文化団体の活動支援

1 芸術文化公演再開緊急支援事業

新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら劇場、音楽堂で芸術文化公演等の舞台芸術活動を再開する取り組みを支援するため、施設使用料の助成を行った。

2 ひょうごアーティスト動画配信事業

新型コロナウイルス感染症によりアーティストの活動が著しく減少し、県民が劇場や美術館へ足を運びにくくなった状況のもと、兵庫県ゆかりの新進・若手アーティストが出演・制作した動画作品を公式 YouTube チャンネルで配信した。

また、第3弾として、芸術文化の分野における創作活動ですぐれた業績をあげた兵庫県及び当協会の顕彰事業各賞の受賞者の動画作品を配信した。

3 次世代応援舞台芸術支援事業

県内文化施設等で音楽・演劇等の公演を実施する際に、一定数の座席を学生向けに無料で開放し、新型コロナウイルスの影響で減少した子どもの舞台鑑賞機会や県内の若手アーティストの活動機会を提供することにより、ポストコロナ社会につながる芸術文化活動を支援した。

4 県民芸術劇場

分散開催に対応するため、2回目公演の出演料を協会負担限度額の範囲内で負担したほか、複数の小学校が合同で実施する場合や生徒数の多い高校は、市町文化ホール等を利用できることとした。

5 県内芸術家ロビーコンサート

新型コロナウイルス感染症により、公演などの中止が相次ぎ、県内の新進・若手アーティストの活動の場が大幅に減少していることから、アーティストに活動の場を提供するとともに、県民の鑑賞機会の創出を目指し、会場の対象を県内の芸術文化施設等に広げ、実施した。

〔県立美術館王子分館関係〕

県立美術館王子分館の管理・運営

兵庫県立美術館王子分館の指定管理者として、横尾忠則現代美術館において展覧会、公開制作やコンサートなど各種催しを開催し、芸術文化に関する情報発信や情報収集を行った。また、原田の森ギャラリーでは、地域のプロ・アマチュア芸術家の発表の場としての役割を果たすよう管理・運営に努めた。

【所在地】 神戸市灘区原田通3丁目8番30号

【施設】 〈原田の森ギャラリー〉 本館（1・2階展示室）、東館（1・2階展示室）、会議室等（5室）

〈横尾忠則現代美術館〉 アーカイブルーム、展示室（2・3階）、コレクションギャラリー、休憩・交流スペース
オープンスタジオ、ミュージアムショップ、インフォメーション

〈喫茶棟〉

〈附属駐車場〉 31台

1 原田の森ギャラリーの管理・運営

（1）貸しギャラリー等の実施

公立美術館としては全国最大規模となる貸しギャラリーや実技教室を活用した洋画・日本画・書道・彫塑等の作品発表、並びに絵画教室等が開催されたとともに、造形芸術の活動・交流・情報発信拠点づくり及び創作活動の発表の場づくりに努めた。

なお、新型コロナウイルス感染防止策として、施設の出入口に赤外線カメラ・消毒液を設置するとともに、展示室・会議室では、非接触型体温計、飛沫防止対策としてアクリルパネルの設置などを行った。施設整備として、展示作品の動画配信や館内イベントの密を避けるためサテライト会場等に外部配信できるよう Wi-Fi 環境の整備工事を行った。

・利用状況

【来館者数】 100,867人

【利用状況】 (単位：日、%又は台、()内対前年比)

施設名	室数等	開館日数	利用日数	利用率
展示室	4室	1,172	944(185.8%)	80.5(165.0%)
会議室等	5室	1,465	881(128.6%)	60.1(114.0%)
駐車場	31台	293	293(112.7%)	14,547台(170.2%)

【利用料収入状況】 (単位：円、税込)

区分	金額 ()内対前年比	区分	金額 ()内対前年比
展示室	21,777,305(198.1%)	附属設備	502,550(213.1%)
会議室等	5,177,745(132.0%)	駐車場	7,451,600(177.7%)
収蔵庫	5,941,800(138.8%)	利便施設	520,939(136.3%)
		合計	41,371,939(172.3%)

※新型コロナウイルス感染症に係る兵庫県対処方針により、令和3年4月25日～5月11日まで臨時休館

(2) ギャラリー運営会議の実施

広く公平・適正な利用を推進するとともに、効率的・計画的なギャラリー運営の円滑化を図るため、絵画、美術・工芸、書等の専門家で構成されるギャラリー運営会議を開催し、貸出計画案の承認を得た。令和3年度については、2022年4月から2024年3月までの利用調整のため、3回の運営会議を開催した。

- ・第1回運営会議 令和3年5月12日
- ・第2回運営会議 令和3年9月15日
- ・第3回運営会議 令和4年2月18日

(3) 情報の提供・広報

① ホームページの運営 (<https://hyogo-arts.or.jp/harada>)

【内 容】施設概要、利用案内、空室情報、展覧会案内 等

② 催し物案内の配布

【配布先】灘区各所、県民会館、他関係施設・公共施設等

【原田の森ギャラリーの管理・運営 評価】

○施設の利用状況

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で展示室の利用率が48.8%まで大きく落ち込んだ。3年度においては、緊急事態宣言による臨時休館、感染急拡大の懸念から5月分の利用は皆無に等しい状態となったが、6月以降は感染防止対策を実施しながら開館にあたり、年間利用率を80.5%まで回復することができた。

利用料収入においてもコロナ前までの数字まで順調に回復している。

○アンケート調査

展示室利用者を対象としたアンケート調査では、「非常に満足」「満足」の合計は、職員の応対98.2%、施設を利用した全般的な満足度は100%であった。

清潔感があり大変広くて使いやすく、コロナ禍においては密回避するには非常に適した施設だと多くのお礼の声をいただいた。

○情報の提供と発信

マスコミや情報誌等のほか、公共施設・近隣店舗への情報提供に加え、ホームページやツイッター、フェイスブック、インスタグラムのSNSなどで、展覧会・イベント情報などを掲示し、常にタイムリーな情報発信の強化に努めた。また、YouTubeチャンネルに施設のPR動画を配信している。

2 横尾忠則現代美術館の管理・運営

横尾忠則氏の優れた作品等について広く県民に鑑賞する機会を提供するため、横尾作品を中心とする展覧会の実施、展示室内での著名ダンサーとのコラボレーション動画の発信など、様々な事業を展開する美術館として運営を行った。

また、横尾忠則氏のもとに保管されていた多彩なコレクションや資料などを様々な角度から紹介するため、美術館4階フロアを改装し、新たな展示室「横尾忠則コレクションギャラリー」として整備するとともに隣接する休憩コーナーも眺望を生かした休憩・交流スペース「キュミラズム・トゥ・アオタニ」として整備、公開した。

【来館者数】44,385人

【入場者数】26,846人

(1) 横尾作品を中心とした展覧会の開催

展 覧 会 名	Curators in Panic ～ 横尾忠則展 学芸員危機一髪
開催期間(日数)	R 3. 3. 27～8. 22 (114 日) (*臨時休館日除く)
入場者数(人)	6,697 人
内有料入場者数	4,857 人(有料入場率: 72.5%)
内 容	令和3～4年にかけて行われた横尾氏の大規模巡回展のため、主要作品約200点を貸出中という学芸員にとっての緊急事態に、敢えて作家と作品の不在を強調し、その存在を浮かび上がらせた企画展。残った収蔵品から学芸員3人が選んだ「押し作品」を展示した。なお、4月25日～5月11日までの14日間は、新型コロナウイルス感染症拡大により臨時休館となった。 【出展点数: 約70点】

展 覧 会 名	YOKOO TADANORI COLLECTION GALLERY 2021(前期)
開催期間(日数)	R 3. 3. 27～8. 22 (114日)
内 容	令和3年3月に4Fにコレクションギャラリーを新設。新型コロナウイルス感染症の影響により、コレクションが美術館へ輸送できないという緊急事態が発生。今回は企画展と連動し、学芸員にとって様々な思い入れやエピソードの詰まった展覧会ポスターを一堂に展示。

展 覧 会 名	横尾忠則の恐怖の館
開催期間(日数)	R 3. 9. 18～R 4. 2. 27 (138 日)
入場者数(人)	20,545 人
内有料入場者数	14,957 人(有料入場率: 72.8%)
内 容	横尾は見えるものや科学で説明できる領域外にも深い関心を寄せており、その作品世界では必然的に「恐怖」や「好奇心」と密接に関わっている。美術館を「お化け屋敷」にみたと、その作品を通じて「芸術」と「恐怖」との関係性を考察する。 【出展点数: 約80点】

展 覧 会 名	YOKOO TADANORI COLLECTION GALLERY 2021(後期)
開催期間(日数)	R 3. 9. 18～R 4. 2. 27 (138日)
内 容	上記「恐怖の館」展と連動し、関連する資料を展示

(2) 貴重なアーカイブ資料の整理と公開

アーカイブでは、横尾氏のもとに保管されていたイラストやポスター、デザイン原稿はじめ、蔵書・関連記事の掲載誌、レコード収集品など多岐にわたる資料を受け入れ、順次、整理・公開した。資料整理をより円滑に行うため、博学連携として甲南大学（令和3年度4名）の博物館実習生を平成26年度から受け入れており、令和3年度からは新たに神戸芸術工科大学、甲南女子大学の博物館実習生を受け入れている。

※ 武蔵野美術大学美術館・図書館と掲載雑誌資料の調査及びデータベース構築を目的とした共同調査事業を行ってきた連携事業は調査完了により令和元年度で終了。

※ 令和3年度の神戸芸術工科大学インターンシップ生の受入れは、新型コロナウイルス感染拡大により大学側から辞退の申出があり2年連続で中止。令和4年度より復活予定。

【令和3年度実績】

・博物館実習生：甲南大学4名、甲南女子大学1名、神戸芸術工科大学1名

・インターン生：0名

① 整理

(ア) 整理済み資料（4,456点）

(イ) ウェブサイトで公開している資料リスト（3,775点※）

※ a から個人情報を含んだ資料等を除いたもの

② 公開

(ア) 整理済み資料については閲覧可能（無料、要予約、個人への貸出不可）

(イ) これまでの利用実績：92件（美術館関係者、研究者、学生、デザイナー等）

③ 展示

企画展等での展示に供した。

(3) オープンスタジオを活用した多彩なイベントの実施

① 企画展関連事業

新型コロナウイルス感染症対策のため、キュレーターズトーク等の対面式のイベントは座席数を限定して実施したほか、前年度に引き続き、映像により、ギャラリー・トークや、展示室の横尾作品をバックにしたパフォーマンスなどを配信するとともに、1階オープンスタジオでも映像を公開し、来館者に好評を得た。

〔Curators in Panic ～横尾忠則展 学芸員危機一髪〕

事業名	開催日	出演者・講	参加者数
キュレーターズ・トーク	R3.4.24	当館学芸員	18人
同上	R3.5.22	当館学芸員	15人
同上	R3.6.26	当館学芸員	26人
公開座談会：学芸員「推し」を語る	R3.7.24	当館学芸員	43人
Curators in Panic ～横尾忠則展 学芸員危機一髪ギャラリー・トーク (★YouTube 配信等)	R3.6.12 ～	当館学芸員	視聴数 1,145 回 (R4.3 月末時点)
YOKOO TADANORI COLLECTION GALLERY 2021 〔前期〕ギャラリー・トーク (★YouTube 配信)	R3.5.8 ～	当館学芸員	視聴数 1,170 回 (R4.3 月末時点)

Unframed 横尾忠則×川井郁子 -アートとヴァイオリンの競演- (★YouTube 配信等)	R3.5.21 ～	川井郁子	視聴数 3,785 回 (R4.3 月末時点)
合 計 7 事業			6,202 人 (うちオンライン 6,100 人)

〔横尾忠則の恐怖の館〕

事業名	開催日	出演者	参加者数
キュレーターズ・トーク	R3.10.16	当館学芸員	48 人
同上	R3.11.20	当館学芸員	36 人
同上	R3.12.18	当館学芸員	23 人
同上	R4.1.15	当館学芸員	25 人
横尾忠則の恐怖の館 PR映像 (★YouTube 配信、Facebook／ Instagram 広告配信)	R3.10.5～	—	YouTube 視聴数 3,158 回(R4.3 月 末時点) 広告視 聴回数 66,230 回
横尾忠則の恐怖の館 ギャラリー・ トーク (★YouTube 配信)	R3.10. 15～	当館学芸員	視聴数 2,107 回 (R4.3 月末時点)
YOKOO TADANORI COLLECTION GALLERY 2021 〔後期〕ギャラリートーク	R3.10. 15～	当館学芸員	視聴数 539 回 (R4.3 月末時点)
合 計 7 事業			5,936 人 (うちオンライン 5,804 人) *広告配信除く

② オープンスタジオコンサート等（当館 1 階）

例年、地域のにぎわいづくりと、当館の新たなファン層の拡大をめざし、県内を中心に活動する優れた音楽家等によるコンサートを実施しているが、年度の前半は新型コロナウイルス感染症対策のため、多くの観客を集めるイベントの開催は自粛した。感染状況の落ち着きを踏まえ、10 月から座席数を半減のうえ、再開している。また昨年度、イベント自粛期間に代替的に制作・配信した動画「Y+TMOCA の舞台裏」も継続して配信した。

タイトル	月 日	出演予定者	参加者数
アコーディオンで聴く少～し 怖い音楽会	R3. 10. 10	461モンブラン／森裕介 (Acc)、山下カナ (Acc)	68人
1 DAY JAZZ ROAD 原田の森ギャラリーピロティ ーステージ	R3. 11. 13	JAZZ ミュージシャン (プロ・アマ・セッション)	120人

華麗なるニューイヤーコンサート	R4. 1. 16	間瀬尚美 (Mar) ほか	77人
Y+TMOCA の舞台裏 全 7 回 ★YouTube 継続配信	R2. 9. 25 ～	当館学芸員	視聴数 3,415回 (R3年度再生数)
合 計 4 事業			3,680 人 (うちオンライン 3,415 人)

(4) 作品・資料等の保存・修復活動

収蔵作品及び資料を良好な状態で保存するため、劣化要因（温湿度、光、空気汚染物質、有害生物など）を制御、排除することで、館内環境を良好に保つよう努めた。保存・修復に際しては、作品のオリジナル性を熟慮したうえで作品の現状維持修復を原則に必要最小限度の修復処置を心がけている。また、電気製品を用いた作品やその他ミクストメディア作品については、各分野の専門家と協力し多角的な視点で修復に取り組んだ。

(5) 連携によるにぎわいづくり

① 地域との連携

(ア) 地域住民・商店街等との連携

- ・ポスター・チラシの配布
- ・灘区が地域住民と実施している「灘総合芸術祭」実行委員会への参加
- ・これまで地元イベントへの参画、開会式への招待等により地域連携を進めてきたが、令和3年度はコロナ感染症対策のため、実施しなかった。
- ・2月には水道筋商店街や王子動物園を巡るパレード（「三田村管打団？」演奏）を計画していたが、コロナ感染症の状況悪化を踏まえ、次年度に延期とした。

(イ) 周辺施設との連携（神戸文学館、灘区民ホール、王子動物園、BBプラザ美術館等）

- ・相互のポスター・チラシの掲示・設置。県立美術館とは、半券提示で相互に割引制度を実施
- ・王子動物園で実施される「ありがとうタンタン」キャンペーンの一環として横尾氏の長女、横尾美美氏によるタンタンをモチーフとした作品展の開催（令和2年度に連携協定書を締結）

(ウ) 美かえるカラフルマルシェの開催

- ・平成28年度からミュージアムロード沿線の阪神電鉄㈱、(株)シマブンコーポレーション、県立美術館本館、地元商店と共催しているアートを軸とした街の賑わいづくりイベント。令和3年度はコロナ感染症を考慮し、「ミュージアムロードInstagramフォトコンテスト」を実施。

② 団体等との連携

日本自動車連盟（JAF）、コープこうべ等と団体割引提携を行い、会員等の来館促進を図った。（令和3年度実績／JAF：580人、コープこうべ508人）

③ 他館との連携

【ミュージアムロードを構成する主要文化施設】

県立美術館本館はもとより、近接する神戸文学館や神戸市立王子動物園、ミュージアムロードの中間点に位置するBBプラザ美術館等と連携し、ポスター掲示、チラシの設置について相互に協力

【その他の美術館等】

(ア) 国内

- ・横尾氏と縁の深い豊島横尾館、西脇市岡之山美術館とは特に緊密に情報を共有し、広報連携等を行っている。
- ・R3年に国内を巡回した過去最大規模の回顧展「Genkyo 横尾忠則展」（愛知県立美術館、東京都現代美術館、大分県立美術館）に所蔵・寄託作品約200点を貸し出したほか、助言等の協力を行った。

(イ) 海外

- ・R4年に上海当代芸術博物館で大規模個展が計画されていたが、新型コロナウイルスの影響により目処が立たない状況である。

(6) 情報の提供・広報

『横尾芸術の一大拠点』、『様々な芸術に触れることのできる場』、『国内外の美術館等との連携』、『参加・体験型のミュージアム』といった当館の魅力を、様々な媒体により、幅広い層に伝えるとともに、ミュージアムロードをはじめとする地域との連携も図りながら、効果的な広報活動を展開

① 展覧会毎の取組

- (ア) 知事定例記者会見での発表、記者説明会の開催
- (イ) 横尾氏がデザインしたチラシ・ポスター等の配布
- (ウ) JTB電子チケットでの当日券の販売、イーティクスによるチケット予約販売（「恐怖の館展」のみ）、神戸観光スマートパスポートでの販売
- (エ) 交通広告（JR、阪急、山陽、神戸シティループバス等）の実施
- (オ) 三宮センター街へ展覧会PR用大型懸垂幕を設置
- (カ) 展覧会関連事業を通じた話題づくり（動画配信など）
- (キ) JR三ノ宮駅交番北側に展覧会看板の掲出
- (ク) SNS広告による発信(Facebook/Instagram)

② 年間を通じた取組

- (ア) マスメディアの活用
 - ・ テレビ・ラジオのニュース・特集番組、新聞・雑誌等
 - ・ 神戸新聞連載「魂を解き放て！」等、取材の積極的な受け入れ
 - ・ eb 版美術手帖タイアップ広告「横尾忠則とともに振り返る横尾忠則現代美術館の10年とこれから」の配信
- (イ) 県広報誌（県民だよりひょうご「文化の風」）、兵庫ジャーナル等
- (ウ) 館長によるトップセールス
講演会等におけるPR等
- (エ) 国際的なPR
 - ・ 県立美術館、BBプラザ美術館と共同での英語・中国語パンフレットの配布
 - ・ 英語字幕付きのYouTube動画の制作・配信
- (オ) 美術館ニュースの発行(R3年度：No26、27)
- (カ) インターネットによる情報発信 (<https://www.ytmoca.jp>)
 - ・ 館ホームページ、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、メールマガジン
 - ・ フォロワー数約31万人を持つ横尾氏のツイッターとの連携
 - ・ 当館公式ユーチューブチャンネルを開設(R2年8月～)
ギャラリートーク（字幕：日・英）のほか、「Y+TMOCAの舞台裏」と題して当館学芸員が美術館の仕事の概要を語る動画（字幕：日・英・中・韓）を配信
- (キ) 各種情報誌、フリーペーパー等への掲載
- (ク) 週刊朝日に瀬戸内寂聴さんとの対談「往復書簡 老親友のナイショ文」が長期連載(R元.8～R4.11)された。瀬戸内氏没後は、横尾氏によるエッセー「シン・老人のナイショ話」が連載中。

〔参考：掲載等の状況〕

	新聞	テレビ・ラジオ
学芸員危機一髪	特集記事（展評等）10回 案内記事（開催情報等）26回	4回（サンテレビ、ラジオ関西等）
横尾忠則の恐怖の館	特集記事（展評等）14回 案内記事（開催情報等）36回	4回（サンテレビ、ラジオ関西等）

【横尾忠則現代美術館の管理運営 評価】

○横尾作品を中心とした展覧会の開催

年間の来館者数の目標を7万人、入場者数の目標を3.5万人と設定し、魅力的な展覧会の開催やオープンスタジオを活用したイベントの開催等により、観客動員を図ってきた。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、4、5月に臨時休館を余儀なくされたが、以降は休館はなく、歴代2位の入場者数を記録した「恐怖の館」展により、来館者数4.4万人、入場者数は、2.7万人となった。目標値は下回ったものの、入場者数はコロナ禍で激減した令和2年度(1.4万人)から大きく増加し、コロナ禍前のR元年度(2.4万人)を上回るまで回復した。

感染拡大防止を基本としつつ社会経済活動等に配慮するなどの県方針に従いつつ、ウィズコロナ／ポストコロナの時代に相応しい創意工夫を重ね、より魅力的な企画により、新たなファン層の開拓を図った。

○動画配信等、オンラインによる情報の発信

コロナ禍における美術館の取組として、R元年度の臨時休館中に開始した「おうちでYTMOCA」等の動画発信の取り組みを継続して美術館の魅力を発信し、取り組みが新聞掲載されるなど好評を得た。

※Unframed 横尾忠則×川井郁子-アートとヴァイオリンの競演-、ギャラリートーク等、全7事業、視聴数 15,319 回。(上記「★YouTube 配信」の箇所)

○貴重なアーカイブ資料の整理と公開

神戸芸術工科大学の学生インターンシップ及び武蔵野美術大学との共同調査、さらに甲南大学および武蔵野美術大学からの博物館実習生により、整理と公開作業が軌道に乗ってきた。このうち武蔵野美術大学との連携は令和元年度で一旦完結となった。

また R2～3 年度はコロナの影響で神戸芸工大のインターンは実施できなかったが、R4 年度より復活予定である。さらに R3 年度より、新たに甲南女子大学と神戸芸術工科大学より博物館実習生を受け入れ、感染症対策を講じながらアーカイブ資料の整理と公開を図った。

○オープンスタジオを活用した多彩なイベントの実施

企画展関連事業やオープンスタジオコンサートを計画していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、年度前半は自粛を継続し、後半は蔓延状況に応じて収容人数を半減にして、実施した。実施回数・参加者数はコロナ前に比べて減ったが、代わりに上記動画発信により館からの情報発信ができた。

○作品・資料等の保存・修復活動

収蔵作品及び資料を良好な状態で保存・継承するため、展覧会と並行して、日々地道な保存・修復活動及び館内の環境維持に努めている。R3 年度には、「横尾忠則の恐怖の館」展で演出のために使用する古い備品類を、博物館実習生の手を借りて事前に消毒・清掃したり、電飾を用いた特殊な作品《Guardian Angel》(1983)を専門家と連携しつつ修復し、「横尾忠則 寒山拾得への道」展での展示を実現させた。

○連携によるにぎわいづくり

県立美術館、BBプラザ美術館、神戸文学館など、ミュージアムロードを構成する文化施設との相互PRや、商店街との連携に努めた。

○情報の提供・広報

横尾氏制作によるポスター・チラシ等による広報展開に加え、ホームページ、ツイッター、フェイスブック、メールマガジンなどの電子媒体による情報提供を積極的に展開している。令和3年度は新たにフェイスブックによる広告配信を行い、一定の成果を得た。

○横尾忠則コレクションギャラリー、休憩コーナーの開設

人と地域をアートでつなぐまちづくりの拠点として、エリア全体の魅力向上を図るため、横尾作品に影響を与えた世界の著名芸術家の寄贈コレクションを展示するコレクションギャラリー、眺望を活かした休憩コーナー「キュミラズム・トゥ・アオタニ」を4階に整備し、新たな館の魅力をPRすることができた。

新型コロナウイルス感染症拡大への対応

基本方針

「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」の策定による感染症対策の徹底

〔原田の森ギャラリー〕

◆令和3年4月23日：新型インフルエンザ等対策特別措置法による「緊急事態宣言」発出（措置期間：4/25～5/11まで、のち6/20まで延長）

臨時休館（兵庫県対処方針による）

臨時休館 4月25日～5月11日

再開に向けた対応

- ①展示室、会議室の利用団体等の予約者への連絡及び日程変更調整、キャンセル対応を行い、利用料金を納めた者については全額返還を行った。
- ②展示室・会議室を利用する美術団体、教室等主宰者に対し、再開にあたっての注意事項（健康チェック、利用者の連絡先の把握、手指消毒・マスク着用、定期的な換気、利用人数の制限等）、感染拡大防止対策ご協力をお願いについて、書面により通知した。

再開後の対応（第2回緊急事態宣言、まん延防止等重点措置期間含む）

- ① 館内感染症対策としては、以下を実施した。
 - ・施設出入口に赤外線カメラ・消毒液の設置
 - ・展示室、会議室への非接触型体温計、アクリルパネルの設置
 - ・館内で来館者が触れる箇所に抗菌剤クリーンフィックスを塗布
- ② 来館ができない方へ向けた動画配信や来館者の密を避けるため、展示室及び401号室内にWi-Fiが利用できる環境の整備工事を実施した。

〔横尾忠則現代美術館〕

◆令和3年4月23日：新型インフルエンザ等対策特別措置法による「緊急事態宣言」発出（措置期間：4/23～5/11まで、のち6/20まで延長）

臨時休館（兵庫県対処方針による）

Curators in Panic ～横尾忠則展 学芸員危機一髪

臨時休館 4月25日～5月11日（14日間）

感染対策を実施の上、5月12日に再開

再開に向けた対応

前年度から実施していた「#おうちでYTMOCA」に加え、展覧会のギャラリートーク映像を制作、動画をYouTubeで配信し、館の魅力を発信した。また閉館中に動画「Unframed 横尾忠則×川井郁子 アートとヴァイオリンの競演」を展示室内で収録した。

再開後の対応

- ① 再開後も、館のPR動画（※）を作成、配信等を行い、美術館の魅力を発信し、新たなファン層の開拓に取り組んだ。
※「Unframed 横尾忠則×川井郁子 アートとヴァイオリンの競演」(5/21～)
「学芸員危機一髪展ギャラリートーク(6/12～)」 「恐怖の館展ギャラリートーク(10/15～)」等
- ② オープンスタジオでのキュレーターズトークについては、座席数を半減のうえ、実施した。
- ③ オープンスタジオコンサート等については、前年度に引き続き、年度の前半は中止としたが、10月以降に感染状況をふまえて座席数を半減の上、再開した。2月に開催を検討していた地域連携イベントは延期とした。
- ④ 館内感染症対策としては、以下を実施した。
 - ・施設出入口に赤外線カメラ・消毒液の設置
 - ・展覧会開催期間中の清掃・清拭の強化（通常の清掃に加え、階段手摺やエレベーター操作盤、テーブルなどの清拭を追加）
 - ・抗ウイルス・抗菌コーティング（HBE）の施工（入館者情報記入台、受付カウンター、ミュージアムショップ陳列台、ソファ、トイレ、階段手摺、エレベーター内等）、予約システム導入による券売窓口の混雑緩和ほか

『収益事業』

公益目的以外の施設提供事業

1 施設の管理運営事業

兵庫県民会館

当協会は、平成18年度から6期18年にわたり兵庫県民会館の指定管理者として管理運営を担っており、広く県民にホール・会議室等の施設を提供するなか、運営経費のコスト削減、経営の合理化に努め、芸術文化に親しむ環境の更なる充実を図った。

当会館では、利用者の安全・安心を確保するため、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し万全の対応を図るとともに、会館の利用拡大や賑わいづくりとして、①ネット会議や配信事業での利用に向けた貸館部門の通信環境（LAN, Wi-Fi）の整備・向上、②パソコンやスマートフォンでギャラリーを歩くような感覚で展示品を鑑賞できるバーチャルギャラリー“Walk 360”の本格運用、③特別展示室の空き期間を活用した作品展示など、新たな取り組みを行った。

【所在地】 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号

【施設】 11階パルテホール(収容150人)、9階けんみんホール(客席数360席)、会議室(18室)、集会室(3室)、宴会室(3室)、時間貸駐車場(37台)、月極車庫(44台)、団体事務室(23団体)、営業店舗(2業者)、アーティストサロン、兵庫県民アートギャラリー(4室)

(1) 利用状況等

【来館者数】 297,950人

【利用状況】 (単位：日、%又は台、()内対前年比)

施設名	室数等	開館日数	利用日数	利用率
11階パルテホール	1室	338	156(111.4%)	46.2(99.6%)
9階けんみんホール	1室	338	189(120.4%)	55.9(107.5%)
会議室	18室	6,084	3,206(108.9%)	52.7(97.4%)
集会室(和室)	3室	1,014	500(124.3%)	49.3(111.0%)
宴会室	3室	1,014	506(97.9%)	49.9(87.4%)
アートギャラリー	4室	1,352	379(170.0%)	28.0(132.1%)
時間貸駐車場	37台	365	365(99.7%)	31,230台(112.7%)
月極車庫	44台	12ヵ月	12ヵ月	526台(100.0%)

【利用料収入状況】 (単位：円、税込)

施設名	金額()内対前年比	施設名	金額()内対前年比
11階パルテホール	14,317,100(117.4%)	アートギャラリー	7,905,300(151.9%)
9階けんみんホール	8,944,875(117.9%)	事務室及び倉庫	29,987,748(99.9%)
会議室	24,563,700(105.6%)	利便施設	505,708(103.0%)
集会室(和室)	1,723,950(120.0%)	月極車庫	18,936,000(100.0%)
宴会室	8,543,400(96.2%)	時間貸駐車場	24,517,800(112.1%)
附属設備	187,500(95.2%)	合計	140,133,081(107.7%)

なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響で当会館の利用料等の収入が減少する中、感染症対策等を講じる必要があったことから、県において令和3年度の指定管理にかかる県への還付金から収支差額分37,158千円を減額し57,442千円とする措置がとられている。

(2) ギャラリー運営会議の開催

広く公平・適正な利用を推進するとともに、効率的・計画的なギャラリー運営の円滑化を図るため、絵画、美術・工芸、書等の専門家で構成されるギャラリー運営会議（3回）を開催し、貸出計画案の承認を得た。

- ・第1回運営会議 令和3年5月12日
- ・第2回運営会議 令和3年9月15日
- ・第3回運営会議 令和4年2月18日

2 駐車場等

(1) 駐車場等の運営

- ・兵庫県民会館 : (時間貸) 収容台数 37台
(月極) 収容台数 44台
- ・芸術文化センター : (時間貸) 収容台数 約100台
- ・県立美術館王子分館 : (時間貸) 収容台数 31台

(2) 喫茶、レストラン等のスペースの貸出

施設利用者の利便に供するため、次のとおりスペースを貸し出した。

- ・兵庫県民会館 : 喫茶・軽食・弁当（地下一階イートインコーナー利用可）・理容
- ・芸術文化センター : 喫茶・レストラン
- ・ピッコロシアター : 喫茶
- ・県立美術館王子分館 : 喫茶・軽食

(3) 関連グッズのショップ設置・運営

- ・芸術文化センター : オリジナルグッズや音楽・バレエなど様々な舞台芸術に関するグッズを販売した。
- ・県立美術館王子分館 : 横尾忠則現代美術館において、横尾グッズ等を販売した。

(4) 自動販売機の設置

施設利用者の利便に供するため、清涼飲料水を中心とした自動販売機を設置した。

- ・兵庫県民会館 : 8台
- ・県立美術館王子分館 : 2台

(5) 図書の頒布等

- ・兵庫県民会館
横尾忠則展図録等の図書頒布販売事業、芸術文化関係入場券の受託商品販売事業を行った。

【県民会館の管理運営事業等 評価】

○利用状況等

令和3年度も新型コロナウイルス感染症により、4月から緊急事態措置が実施され会館が臨時休館となった。以降も緊急事態措置やまん延防止等重点措置が実施されるなか、集客施設の利用を手控える傾向が続き、利用は低調なまま年度末を迎えた。（会議室利用率 令和元 70.8%→②54.1%→③52.7%）

集客施設の利用や外出、催事の抑制・自粛ムードが続くなか、感染防止対策の徹底に加え、会議室等の通信環境（LAN、Wi-Fi）向上によるウェブ会議等の取り組みやバーチャルギャラリー“Walk 360”の本格運用、けんみんホールやロビーを活用した新進アーティストの活躍の場の設定など、新たな利用につながる取り組みにより、県民会館利用料収入は対前年度比 107.7%と前年度を上回ることができた。

（参考：利用料収入の対令和元年度比 75.3%）

○施設・設備改修

県民会館は築 50 年以上が過ぎており、施設利用者に安全に安心して利用していただくため、施設・設備の改修やメンテナンスを適時適切に行なっている。また、空調用冷温水機の故障が判明したが県補正予算 3,881 千円を確保して周辺装置の分解整備も併せて修繕するなど、館内の快適性・利便性の維持・向上に努めている。

○県民会館の指定管理

当協会は、指定管理者制度が始まった平成 18 年度から指定管理者として県民会館の運営を安定的かつ効率的に行ってきたおり、毎年度実施している利用者アンケートでは、「職員・スタッフの対応」を 87%の人が満足と回答しており、管理・運営の各項目で、満足度が概ね 80%を超えるなど、高い評価を得ている。（7月と3月の2回実施）

新型コロナウイルス感染症拡大への対応

基本方針

「新型コロナウイルス感染症に係る感染予防・拡大防止対策」の策定による感染症対策の徹底

◆令和3年4月23日：新型インフルエンザ等対策特別措置法による「緊急事態宣言」発出（措置期間：当初4/25～5/11まで、のち6/20まで延長）

臨時休館（兵庫県対処方針による）

臨時休館 4月25日～5月11日

再開に向けた対応

(1) 館内入居団体等への対応

- ・休館期間中の会館利用についての注意喚起（書面通知及び掲示）
 - ① 入館時の手指消毒・マスク着用の励行
 - ② 各団体職員の健康チェック、外部からの事務室利用者の連絡先の把握
 - ③ 定期的な換気と利用人数の制限
 - ④ 入退館経路の制限(南入口のみ)
 - ⑤ 入居団体職員の利便を考慮し1Fカフェが営業（平日の11時～14時）

(2) ホール、ギャラリー、会議室の利用団体等への対応

- ・休館期間における予約者への連絡及び日程変更調整、キャンセル対応（キャンセル料返還処理含む）
- ・貸館業務再開に向けた準備
 - ① 貸館スペース（館内共有部分及び備品含む）の消毒・抗菌コーティング
 - ② 対面業務を行う受付・管理人室への飛沫防止ビニール幕の更新
 - ③ 南北両出入口へのサーモカメラ・手指消毒液設置と動線案内表示の更新
 - ④ 感染防止のための貸出物品（消毒液、飛沫防止パーティション、非接触型体温計、着席制限ボード等）の準備
 - ⑤ 空調設備による外気導入・各階通路の窓開閉による換気の上
 - ⑥ 利用者向けの注意喚起書面の配付・掲示

再開後の対応

(1) 上記以外に館内感染症対策として以下を実施。

- ・鍵や消毒スプレーなど利用者への受渡物品の消毒、現金のトレー収受
- ・クレジットカード対応多機能決済端末の導入（R4.3月から）
- ・毎月初の予約抽選会における事前申込制（メール・FAX）の採用
- ・兵庫県新型コロナ追跡システムのQRコード掲出（R2.7月から）
- ・会議室等への非接触型体温計、飛沫防止アクリルパネルの貸出・設置
- ・パソコンやスマートフォンでギャラリーの展示物を歩くような感覚で鑑賞できるバーチャルギャラリー“Walk 360”の運用開始（R3.2月から）。